

点検・評価シート

1. 教育委員会の活動

自己評価	A
------	---

1. 教育委員会の活動	担当	教育委員会
評価理由		平成 18 年、約 60 年ぶりに教育基本法が改正され、それにもない平成 19 年には教育関連 3 法案が改正・成立した。地方教育行政の組織及び運営に関する法律（地教行法）の改正において教育委員会の責任と職務の明確化がなされた。 「基本理念」として、「地方公共団体における教育行政は、教育基本法の趣旨にのっとり、教育の機会均等、教育水準の維持向上及び地域の実情に応じた教育の振興が図られるよう、国との適切な役割分担及び相互の協力の下、公正かつ適正に行わなければならない。」と示された。 「服務等」について、「委員は、その職務の遂行にあたっては、自らが当該地方公共団体の教育行政の運営について負う重要な責任を自覚するとともに、第 1 条の二に規定する基本理念に則して当該地方公共団体の教育行政の運営が行われるよう意を用いなければならない。」と定められた。 教育委員会制度について、地教行法等からその概要をまとめると次のとおりである。 教育委員会は都道府県及び市町村等におかれる合議制の執行機関で、創造的で人間性豊かな人材を育成するため、生涯学習の推進をはじめ、教育、文化、スポーツの振興など幅広い分野にわたる教育行政を一体的に推進していく上で、教育委員会制度は重要な役割を担っている。 5 名の教育委員（うち 4 名は非常勤、1 名は常勤の教育委員（教育長））をもって組織され、会議を通じて意志決定をする。教育委員長（委員の互選により 1 名、任期 1 年、再任可）は、教育委員会の会議を招集し、かつ主宰し、教育委員会を代表するものとされ、会議の議事は出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、教育委員長の決するところによる。教育委員長名で教育委員会の権限に属する法律行為をなしうが、教育委員長単独の意志ではなく、あくまで合議体としての教育委員会の決定により行われるものである。 教育委員会は、多岐にわたる教育事務のすべてを処理するものではなく、会議において教育事務の管理執行に関し方針、重要事項を決定し、それを具体的に執行するのは教育長の役割である。このような役割分担を前提として、教育委員会規則に掲げる 10 項目を除き、その権限に属する教育事務を教育長に委任することとしている。 会議は、原則として公開であるが、人事に関する事項、その他の事項について、教育委員長または委員の発議により、出席委員の 3 分の 2 以上の多数で議決したときは、会議を公開しないことができる。会議は毎月 1 回定例会を招集し、教育委員長が召集の必要を認めるとき等、必要に応じて臨時会等を招集する。これは、地域の様々な行政課題に迅速かつ的確に対応できるようにするために、定例会だけでなく、臨時会や委員協議会などの方式を積極的に活用し、開催日時を工夫することが重要なためである。 上記のことを踏まえ、下記の（１）から（６）の評価項目を設定し、評価することとした。 （１）教育委員会の会議の運営改善 教育委員会会議の開催回数 教育委員会会議の運営上の工夫 （２）教育委員会の会議の公開、保護者や地域住民への情報発信 教育委員会会議の傍聴者の状況 会議録の公開、広報・公聴活動の状況 （３）教育委員会と事務局との連携 教育委員会と事務局との連携 （４）教育委員会と市長との連携 教育委員会と市長との教育懇談会の実施 （５）教育委員の自己研鑽 研修会への参加状況 （６）学校及び教育施設に対する支援・条件整備 学校訪問 所管施設の訪問

今後の対応 の方向性	・教育委員は、職務の遂行にあたり、教育行政の運営について責任を自覚し、教育の機会均等、教育水準の維持向上及び地域の実情に応じた教育の振興が図られるよう公正かつ適正に行うよう心がけることが大切である。また、教育委員会として創造的で人間性豊かな人材を育成するため、生涯学習の推進をはじめ、文化、スポーツの振興など幅広い分野にわたる教育行政を一体的に推進していかなければならない。 ・平成 23 年度に策定した「津山市教育振興基本計画 “ つなぐ力を育む ”」(平成 24 年度から平成 28 年度までの 5 年間計画)の中で、学校教育や社会教育、生涯学習、スポーツ、文化などの 8 領域、25 項目にわたって、重点取組を掲げている。計画の実現に向けて、定期的な点検と進行管理を毎年度行うこととなっており、達成率の低い項目への取組を、中長期的視点に立ちながら、評価・検証を行っていく。 ・幼稚園の[新教育要領]は平成 21 年 4 月から完全実施。「新学習指導要領」は、小学校では平成 23 年 4 月から、中学校は平成 24 年 4 月から完全実施された。子どもたちの未来の為に、学校・家庭・地域が力を合わせて、社会全体で「生きる力」を育む教育環境の構築・整備の充実が急がれる。 ・教育委員会の活動を地域住民に広く的確に伝え、住民の意向を把握し、それを施策に反映させる体制を整備することが重要である。情報提供などの広報活動や、教育行政に関する相談活動をさらに充実させる必要がある。
自己評価	A

平成 2 5 年度教育委員会の活動状況

(1) 教育委員

氏 名	役 職	委員就任年月日	現 任 期
いはらだ ひろこ 居原田 洋子	委員長 (平成 24 年 10 月 1 日 ~)	平成 22 年 12 月 25 日	平成 22 年 12 月 25 日 ~ 平成 26 年 12 月 24 日
もり なおみ 森 尚美	委員 (~ 平成 25 年 9 月 30 日) 委員長職務代理者 (平成 25 年 10 月 1 日 ~)	平成 24 年 10 月 1 日	平成 24 年 10 月 1 日 ~ 平成 28 年 9 月 30 日
わたなべ しんすけ 渡邊 信介	委員長職務代理者 (~ 平成 25 年 9 月 30 日) 委員 (平成 25 年 10 月 1 日 ~)	平成 22 年 12 月 25 日	平成 22 年 12 月 25 日 ~ 平成 26 年 12 月 24 日
ま き はじめ 真木 源	委員 (平成 25 年 4 月 1 日 ~)	平成 25 年 4 月 1 日	平成 25 年 4 月 1 日 ~ 平成 29 年 3 月 31 日
た むら よしのり 田村 芳倫	教育長 (平成 22 年 4 月 1 日 ~)	平成 22 年 4 月 1 日	平成 24 年 4 月 1 日 ~ 平成 28 年 3 月 31 日

(2) 教育委員会会議の開催状況

(定例会・・・「定」、臨時会・・・「臨」)

月 日	定・臨	教育長等の 報告	議 案	協 議	報 告	その他
4月23日	定	0	8	1	9	1
5月28日	定	0	7	5	4	2
6月25日	定	0	7	0	3	3
7月23日	定	0	2	0	2	1
8月27日	定	0	2	5	6	1
9月24日	定	0	2	0	1	6
9月24日	臨	0	1	0	0	0
10月22日	定	0	2	0	1	3
11月26日	定	0	1	19	5	5
12月24日	定	0	5	1	3	1
1月28日	定	0	1	0	4	2
2月25日	定	0	1	9	0	6
2月25日	臨	0	1	0	0	0
3月14日	臨	0	3	0	0	0
3月25日	定	0	9	0	6	0
合 計		0	52	40	44	31

定例会12回、臨時会6回開催

(3) 教育長代決処理案件

(非) は非公開とした案件

月 日	議 決 案 件
該当なし	

(4) 教育委員会議決案件

(非) は非公開とした案件

月 日	議 決 案 件
4月23日	校務を分担する主任等の命免について(非) 津山市社会教育委員の委嘱及び解嘱について(非) 津山市社会教育委員の委嘱及び解嘱について(非) 津山市放課後子ども事業実行委員会委員の委嘱について(非) 津山市指定文化財の指定について 津山市指定文化財の名称変更について 津山市城東伝統的建造物群保存地区保存計画の変更について 津山市スポーツ推進委員の委嘱について(非)
5月28日	平成25年度津山市立小・中学校学校評議員の委嘱について(非) 津山市指定管理者審査委員会(教育委員会生涯学習部)委員の委嘱について(非) 津山市公民館運営審議会委員の委嘱及び解嘱について(非) 津山市青少年育成指導委員の委嘱及び解嘱について(非) 津山市教育相談センター鶴山塾運営委員会委員の委嘱及び解嘱について(非) 津山市スポーツ推進審議会委員の委嘱について(非)

	津山市文化財保護委員会規則の一部を改正する規則について
6月25日	津山市心身障害児就学指導委員会委員の委嘱について（非） 学校給食充実のための懇談会設置要綱の制定について 津山市公民館整備計画について（非） 津山市青少年育成指導委員の委嘱及び解嘱について（非） 津山市教育相談センター鶴山塾運営委員会委員の委嘱及び解嘱について（非） 津山市立図書館協議会委員の任命及び解任について（非） 津山市史編さん委員会委員の委嘱について（非）
7月23日	津山市特別支援教育推進センター規則の制定について 学校給食充実のための懇談会委員の委嘱について（非）
8月27日	平成24年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価報告書について 津山市特別支援教育推進センター職員の委嘱について（非）
9月24日	久米山ふれあいロッジ条例施行規則を廃止する規則について 津山市文化振興事業基金運営委員会委員の委嘱について（非）
9月24日	委員長の選出及び委員長職務代理者の指定について（非）
10月22日	津山市文化施設検討懇談会要綱の制定について 津山市文化施設検討懇談会委員の委嘱について（非）
11月26日	津山市指定文化財の解除について
12月24日	平成26年度津山市立図書館の休館日について 音楽文化ホール・ベルフォーレ津山条例施行規則の一部を改正する規則について 津山文化センター条例施行規則の一部を改正する規則について 津山市体育施設条例施行規則の一部を改正する規則について 津山市城東伝統的建造物群保存地区保存計画の変更について
1月28日	平成26年度津山市教育行政重点施策の基本目標等について
2月25日	津山市青少年育成センター運営審議会委員の委嘱及び解嘱について（非）
2月25日	津山市立小学校校長・教諭の行政措置について（非）
3月14日	第3次津山市子ども読書活動推進計画について 平成25年度末津山市立学校教職員人事異動について（非） 平成26年4月1日付け津山市教育委員会事務局職員の人事異動について（非）
3月25日	平成26年度津山市教育行政重点施策について 津山市教育委員会公印規則の一部を改正する規則について 津山市立学校給食センター条例施行規則の一部を改正する規則について 津山市教職員宿舍管理規則を廃止する規則について 津山市立学校文書取扱規程の一部を改正する規定について 津山市立小・中学校の通学区域を定める告示の一部を改正する告示について 津山市伝統的建造物群保存地区保存計画の変更について 津山洋学資料館協議会委員の任命について（非） 津山市スポーツ推進委員の委嘱について（非）

（５）教育委員会協議案件

（非）は非公開とした案件

月 日	議 決 案 件
4月23日	津山市公民館整備方針について（非）
5月28日	平成25年度6月補正予算について（非） 体罰の実態把握に関する緊急調査結果（平成24年度）概要について（非） 小・中学校校舎等耐震改修工事請負契約等の締結について（非） 戸島食育センター改修工事請負契約等の締結について（非） 津山東公民館整備事業工事請負契約等の締結について（非）

8月27日	平成25年度9月補正予算について（非） (仮称)津山市東部学校給食センター新築建築工事請負契約等の締結について（非） (仮称)津山市東部学校給食センター新築電気設備工事請負契約等の締結について（非） (仮称)津山市東部学校給食センター新築機械設備工事請負契約等の締結について（非） 久米山ふれあいロτζジ条例を廃止する条例について（非）
11月26日	平成25年度末津山市立小・中学校教職員人事異動方針について 平成25年度12月補正予算について（非） 平成26年度教育委員会当初予算要求事業について（非） 鶴山小学校校舎耐震改修工事請負契約等の締結について（非） 津山市文化センターの指定管理者の指定について（非） 津山市久米総合文化運動公園市民プールの指定管理者の指定について（非） 津山市社会教育委員の設置及び定数及び任期に関する条例の一部を改正する条例について（非） 津山市立学校施設使用条例の一部を改正する条例について（非） 勝北陶芸の里工房条例の一部を改正する条例について（非） 久米ふれあい陶芸センター条例の一部を改正する条例について（非） 音楽文化ホール・ベルフォーレ津山条例の一部を改正する条例について（非） 津山市立文化展示ホール条例の一部を改正する条例について（非） 津山市勝北文化センター条例の一部を改正する条例について（非） 津山市久米総合文化運動公園市民プール条例の一部を改正する条例について（非） グラスハウス条例の一部を改正する条例について（非） 津山市公民館条例の一部を改正する条例について（非） 津山文化センター条例の一部を改正する条例について（非） 津山市加茂町文化センター条例の一部を改正する条例について（非） 津山市体育施設条例の一部を改正する条例について（非）
12月24日	勝北陶芸の里工房条例施行規則の一部を改正する規則について
2月25日	平成25年度3月補正予算について（非） 平成26年度当初予算について（非） 向陽小学校校舎耐震改修工事請負変更契約の締結について（非） (仮称)津山市東部学校給食センター新築工事請負変更契約の締結について（非） (仮称)津山市東部学校給食センター新築電気設備工事請負変更契約の締結について（非） (仮称)津山市東部学校給食センター新築機械設備工事請負変更契約の締結について（非） (仮称)津山市東部学校給食センター食缶等の購入契約の締結について（非） 津山市公民館条例の一部を改正する条例について（非） 津山市青少年問題協議会条例の一部を改正する条例について（非）

（6）教育委員協議会の開催状況

月 日	協議題数	月 日	協議題数	月 日	協議題数
4月23日	3	7月23日	1	1月28日	3
5月28日	6	9月24日	1	2月25日	3
6月25日	2	12月24日	3	3月25日	1

9回開催

(7) 各懇談会

月 日	内 容
7月22日 23日 30日	市内小中学校PTA会長・教育長の懇談会
8月27日	市長・副市長と教育委員との教育懇談会
11月19日	市内小中学校校長・教頭・教育委員の懇談会

(8) 教育委員会会議以外の活動状況

学校訪問

月 日	訪 問 校 及 び 訪 問 施 設	
	小・中 学 校	小・中学校以外の施設
6月13日	佐良山小学校、津山西中学校、喬松小学校	久米公民館、久米図書館、久米歴史民俗資料館、久米山ふれあいロッジ
6月21日	高田小学校、高倉小学校、清泉小学校、河辺小学校	国分寺跡
6月26日	向陽小学校、加茂中学校、広戸小学校、東小学校	加茂町スポーツセンター
10月29日	大崎小学校、新野小学校、勝加茂小学校、北小学校、北小通級指導教室	
10月31日	中道中学校、鶴山小学校、久米中学校	洋学資料館、箕作阮甫旧宅、城東むかし町屋

小学校14校、中学校4校、小・中学校以外の施設10施設

研究会・発表会

月 日	学 校 名	事 業 名
6月19日	中正小学校	津山市教育委員会指定 津山市小・中学校研究支援事業「学び合う児童の育成（共同学習）」
7月3日	林田小学校	県教育委員会指定 小学校理科ステップアップ研修会
9月12日	北陵中学校	津山市教育委員会指定 津山市学力向上げんぼプロジェクト研究推進事業「認め合い、支え合い、確かな学びをめざす生徒の育成」
10月2日	津山東中学校	県教育委員会指定 津山市学力向上げんぼプロジェクト研究推進事業「今 何が大切かを考えて行動しよう～生徒に対して全ての学校力で～」

10月17日	勝加茂小学校	津山市教育委員会指定 津山市学力向上げんぼプロジェクト研究推進事業「確かな学力をつける～互いに認め合いながら、学習の喜びを実感できる授業づくり～」
10月22日	誠道小学校	津山市教育委員会指定 津山市校内研究公開推進事業「自分の思いや考えを表現できる子を目指して」～学び合いを通して～
10月24日	弥生小学校	県総合教育センター初任者研修講座 学習指導と評価
10月29日	東小学校	津山市教育委員会指定 津山市小・中学校研究支援事業「共に学ぶ喜びと達成感を味わうことのできる授業づくり」
10月30日	院庄幼稚園	美作支部研究会指定 津山市幼稚園教育研究大会「進んで人とつながり、生き生きと活動する幼児をめざして一個の育ちを捉えることを大切にしてい」
11月13日	津山西中学校	津山市教育委員会指定 津山市学力向上げんぼプロジェクト研究推進事業「認め合い、支え合い、確かな学びをめざす生徒の育成」
11月15日	北陵中学校	津山市教育委員会指定 津山市学力向上げんぼプロジェクト研究推進事業「認め合い、支え合い、確かな学びをめざす生徒の育成」
11月20日	勝北中学校	津山市教育委員会指定 津山市小・中学校研究支援事業、津山市校内研究公開推進事業「学力の向上をめざした学習指導法の工夫」
11月21日	中正小学校	津山市教育委員会指定 津山市小・中学校研究支援事業、津山市校内研究公開推進事業「学び合う児童の育成（共同学習）」
11月22日	院庄小学校	県総合教育センター 情報教育研修サテライト講座（ICT活用指導力向上研修講座）
11月27日	南小学校	津山市教育委員会指定 津山市学力向上げんぼプロジェクト研究推進事業「お互いに伝え合い認め合う児童の育成」
11月29日	弥生小学校	津山市教育委員会指定 津山市学力向上げんぼプロジェクト研究推進事業「自ら考え、表現する力の育成」
12月10日	西小学校	津山市教育委員会指定 津山市学力向上げんぼプロジェクト研究推進事業「考える力の育成」
2月21日	北陵中学校	津山市教育委員会指定 津山市学力向上げんぼプロジェクト研究推進事業「認め合い、支え合い、確かな学びをめざす生徒の育成」
2月26日	久米中学校	キャリア教育実践モデル開発事業 「質の高い学び合いを保障する授業づくり」

記念式・行事等

月 日	行 事 名
4月21日	第21回津山加茂郷フルマラソン全国大会
7月15日	津山市こどもまつり
8月27日	津山市教育相談センター鶴山塾教育講演会
10月13日	第42回つやま市民スポーツ祭
10月17日	第19回津山市立幼稚園合同保育 ワイワイまつり
1月12日	第64回津山市成人を祝う会
1月19日	津山市PTA連合会・津山市家庭教育推進協議会共催教育講演会（増岡 弘 氏）
2月22日～23日	津山生涯学習まつり「津山市中央公民館文化祭」
3月22日	阿波小学校閉校式

卒業式

月 日	内 容
3月15日	市内8中学校
3月20日	市内27小学校
3月22日	市内1小学校（阿波小学校）
3月18日	市内13幼稚園

視察

月 日	視 察 内 容
2月20日	岡山県岡山市 （教育委員会、市立藤田第三小学校、私立福田公民館） 「持続可能な開発のための教育（E S D）の取組について」他

会議・総会・研修会（教育長会議を含む）

月 日	会議・研修名	場 所
4月 5日	美作地区市町村教育委員会4月定例教育長会議	津山教育事務所
4月22日	平成25年度教育問題懇談会	岡山県総合教育センター （吉備中央町）
5月 9日	岡山県都市教育委員会教育長協議会第1回定例会	勝山文化センター
5月10日	美作地区市町村教育委員会5月定例教育長会議	津山教育事務所
5月 8日	市町村教育委員会教育長等人権教育連絡会	岡山県総合教育センター （吉備中央町）
5月29日～ 31日	全国都市教育長協議会定期総会並びに研究大会	旭川市民文化会館他（旭川市）
6月 5日	美作地区市町村教育委員会6月定例教育長会議	津山教育事務所
6月 3日～ 25日	平成25年6月津山市議会定例会 本会議・総務文教委員会	津山市議会
6月28日	美作地区市町村教育委員会連絡協議会総会及び教育委員研修会	津山市勝北公民館
7月 2日	岡山県市町村教育委員会連絡協議会役員会・総会	倉敷アイビースクエア
7月 5日	美作地区市町村教育委員会7月定例教育長会議	津山市教育委員会
7月18日	第9回中国地区市町村教育委員会連合会研修大会	ホテル一畑（松江市）
8月 2日	岡山県都市教育委員会教育長協議会臨時会	ピュアリティまきび
7月29日	津山市学校教育研究センター全員研修会	ベルフォーレ津山
8月 5日	岡山県人権教育推進委員会第40回会議	ピュアリティまきび
9月 2日～ 27日	平成25年9月津山市議会定例会 本会議・総務文教委員会	津山市議会
9月 6日	美作地区市町村教育委員会9月定例教育長会議	津山教育事務所
10月 3日	県教育長及び県知事と各市町村教育長との意見交	岡山県立図書館

	換会	
1 0 月 7 日	美作地区市町村教育委員会 1 0 月定例教育長会議	真庭市役所
1 0 月 1 7 日 ~ 1 8 日	中国地区都市教育長会定期総会並びに研究協議会	セントラルホテル(山口県 山陽小野田市)
1 1 月 1 1 日	美作地区市町村教育委員会 1 1 月定例教育長会議	津山教育事務所
1 1 月 1 3 日	岡山県市町村教育委員会連絡協議会研修会	倉敷アイビースクエア
1 1 月 2 0 日	美作地区市町村教育委員会連絡協議会教育委員秋 季研修会	鏡野町ペスタロッツ館
1 2 月 2 日 ~ 1 2 月 2 5 日	平成 2 5 年 1 2 月津山市議会定例会 本会議・総務文教委員会	津山市議会
1 2 月 9 日	美作地区市町村教育委員会 1 2 月定例教育長会議	津山教育事務所
1 月 9 日	美作地区市町村教育委員会 1 月定例教育長会議	津山教育事務所
1 月 1 4 日	県・市町村教育長会	岡山県庁
1 月 2 2 日 ~ 2 3 日	岡山県都市教育委員会教育長協議会教育行政視察	高知市教育委員会
2 月 5 日	岡山県都市教育委員会教育長協議会第 3 回定例会	おかやま山陽高等学校
2 月 6 日	美作地区市町村教育委員会 2 月定例教育長会議	津山教育事務所
3 月 3 日 ~ 3 月 2 5 日	平成 2 6 年 3 月津山市議会定例会 本会議・総務文教委員会	津山市議会
3 月 7 日	美作地区市町村教育委員会 3 月定例教育長会議	津山教育事務所

定期発行冊子等

発 行 名	発行担当課	内 容
平成 25 年度津山市の教育	教育総務課	教育委員会の基本方針、具体的施策、機関、施設等 を紹介。年 1 回発行。
平成 25 年度教育行政重点 施策	教育総務課	教育委員会の基本方針、具体的施策等を紹介。年 1 回発行。
平成 24 年度教育に関する 事務の管理及び執行の状況 の点検・評価報告書	教育総務課	教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の 状況を点検・評価したもの。年 1 回発行。
津山市教育委員会広報誌 つやま市教委かわら版	教育総務課	教育委員会や教育関係施設の活動を紹介したもの。 年 3 回発行。
教育相談だより N O W	生涯学習課 (鶴山塾)	鶴山塾の教育相談状況などを紹介したもの。(教職 員向け) 年 1 回発行。
年報津山弥生の里	文化課 (弥生の里文 化財センター)	弥生の里文化財センターの事業概要等を紹介した もの。年 1 回発行。
津山スポーツだより	スポーツ課	施設の行事や教室案内等を紹介したもの。月 1 回発 行。

津山市幼稚園 未就園児対象 園開放の紹介	こども課	津山市内の未就園児を対象にした園開放について、各学期ごとに実施日や内容を紹介したもの。年 3 回発行。
特別展図録	文化課 (郷土博物館)	学芸員の研究による展覧会の記録を紹介したもの。年 1 回発行。
津山郷土博物館年報	文化課 (郷土博物館)	博物館活動の記録を紹介したもの。年 1 回発行。
津山郷土博物館だより 津博	文化課 (郷土博物館)	イベントや講座、研究ノート等、博物館情報を紹介したもの。年 4 回発行。
津山松平藩町奉行日記	文化課 (郷土博物館)	博物館所蔵資料を紹介したもの。年 1 回発行。
洋学資料館(機関誌)	文化課 (洋学資料館)	企画や講演会、洋学資料関連や手記などを紹介したもの。年 3 回発行。
洋学研究誌 一滴	文化課 (洋学資料館)	研究論文、資料、企画展等を紹介したもの。年 1 回発行。
生涯学習通信「まなびい」	生涯学習課	生涯学習に関する講座や公民館活動等を紹介したもの。年 1 回発行。
中央公民館だより	生涯学習課 (中央公民館)	中央公民館の活動状況等を紹介したもの。年 3 回発行。
津山市立図書館だより	図書館	施設利用案内やイベント等を紹介したもの。月 1 回発行。

平成 25 年度外部評価者(本報告書の作成に係る学識経験者)

氏 名	所属等
國 藤 義 隆	自営業役員
土 居 和 栄	元小学校長

2.教育委員会が管理・執行する事務

自己評価	A
------	---

2. 教育委員会が管理・執行する事務	担当	教育委員会
評価理由	教育委員会の「職務権限」については、地教行法第 23 条により、19 項目(省略)について管理し、及び執行すると定めている。 次に、「事務の委任等」については、地教行法第 26 条により、「教育委員会は、教育委員会規則で定めるところにより、その権限に属する事務の一部を教育長に委任し、又は教育長をして臨時に代理させることができる。」と定めている。 津山市教育委員会教育長に対する事務委任規則では、 「第 1 条 この規則は、津山市教育委員会（以下「教育委員会」という。）及び教育長の権限に属する事務執行の能率的運営とその責任の明確化を図ることを目的とする。 第 2 条 教育委員会は、次に掲げる事項を除きその権限に属する教育事務を教育長に委任する。 （１）教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針に関すること。 （２）教育委員会規則その他教育委員会の定める規程の制定又は改廃に関すること。 （３）教育委員会の所管に属する学校その他教育機関の設置及び廃止に関すること。 （４）教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員の任免その他の人事に関すること。 （５）教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等に関すること。 （６）教育予算その他市議会の議決を経るべき事件について意見を申し出ること。 （７）法令等で定められた諮問機関の委員を委嘱すること。 （８）学令児童・生徒の就学すべき学校の区域を設定し、又はこれを変更すること。 （９）教科用図書の採択に関する一般方針を定めること。 （１０）市重要文化財を指定及び解除すること。 ２ 教育長は、前項の規定にかかわらず委任された事務について、重要かつ異例の事態が生じたときは、教育委員会の決定によらなければならない。 ３ 特に急を要した教育委員会委員長が会議に付する暇がないと認めた事項は、第 1 項の規定にかかわらずこれを教育長において代決処理することができる。この場合教育長は、次回の委員会に報告し承認を得なければならない。」と定めている。 津山市の組織機構改革（平成 23 年 4 月）に伴い、教育委員会事務局は、津山市教育委員会の権限に属する事務の補助執行に関する規則の一部改正（第 2 条第 1 項、第 3 条第 3 項について）により、学校教育部と生涯学習部の 2 部制となった。市長部局で業務を行っていた生涯学習、文化振興、市民スポーツの各部門は教育委員会に再編されて 2 年が経過し、2 部制が浸透するとともに連携体制の構築ができた。就学前教育については、幼稚園・保育所（園）の一体的運用など国の動向を見定めるため、引き続き、市長部局で業務を行っている。 「専決」については、第 3 条により、 「前条により補助執行させる事務の執行において、補助執行職員は、次に掲げる事項を除き、津山市事務決裁規程（以下「市長部局の規程」という）の規定により、所管に係わる事項を専決するものとする。この場合において、市長部局の規程に規定されていない事項については、津山市教育委員会事務決裁規程（以下「教育委員会の規程」という）の規定を準用し、専決できるものとする。 （１）教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針に関すること。 （２）教育委員会規則その他教育委員会の定める規程の制定又は改廃に関すること。 （３）教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の設置及び廃止に関すること。 （４）教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検並びに評価等に関すること。 （５）教育予算その他市議会の議決を経るべき事件について意見を申し出ること。 （６）法令等で定められた諮問機関の委員を委嘱すること。	

	2 補助執行職員は、前項の規定により専決する事務が次の各号のいずれかに該当するときは、同項の規程にかかわらず、これを教育委員会に付議しなければならない。 (1) 重要かつ異例に属すること。 (2) 疑義があるとき、又は紛議を生じ、若しくは生ずるおそれがあるとき。」と定めている。 以上のことから(1)から(13)の評価項目を設定し評価することとした。
今後の対応の方向性	・教育委員会の組織力や機動力、連携を活かし、津山市の教育の充実・発展のため、各項目に関して適切に実行、推進する。 ・いきいきとした津山らしい社会の実現に向け、津山市教育振興基本計画（平成24年2月策定）に基づき、個人の学びから一歩踏み出し、学びの成果を広く社会の中で活かすことのできる基礎となる「つなぐ力」を育むため、諸施策を展開する。 ・津山市の学校が抱える課題を明らかにし、学校教育の充実及び学校力の向上のために必要な具体的施策をより重点化した取組として、平成24年度に策定した「学校力向上推進プラン」に基づき、引き続き学校・家庭・地域と教育委員会が一丸となった教育行政を推進し、子ども達の「確かな学力」へとつなげていく。 ・生涯学習、文化、市民スポーツの分野では、それぞれのライフステージとニーズにあった学習をし、その成果をまちづくりに活かすことが求められている。 ・教育長と教育委員長を一本化した「新教育長」や「総合教育会議」の設置等を内容とする「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」が、平成27年4月1日から施行される。教育委員会が、地方における教育行政の担い手として、これまで以上に重要な役割を果たし、さらに主体的に地方教育行政を展開する観点からも、国等の動向を見極めながら、必要に応じて要件や手続き等の見直しを実施していく。
自己評価	A

具体的な施策	(1) 教育行政の運営に関する基本方針を定めること	担当	教育委員会
実施結果	平成23年度に行われた津山市の組織機構改革により津山市教育委員会は学校教育部と生涯学習部の2部制となった。学校教育部には教育総務、学校施設、学校教育、保健給食の各課が、生涯学習部には生涯学習、図書館、文化、スポーツの各課が所属し、部内の連携体制も浸透し、教育行政の一層の充実が図られてきている。 なお、就学前教育については、幼稚園・保育所（園）の一体的運用など国の動向を見定めるため、引き続き市長部局で補助執行を行っている。 平成24年2月に策定した「津山市教育振興基本計画」の教育基本理念「つなぐ力を育む～あなたとわたし、学校・家庭・地域、そして世代を超えて～」に基づき、笑顔があふれ、いきいきとした津山らしい社会が実現することを目指す教育行政の基本方針を定めており、組織の連携体制と本点検及び評価を活用しながら、方針の確認と計画の進捗状況の点検を実施した。 さらに、教育基本理念をもとに「ふるさとを愛し 心豊かに たくましく 未来へ「つなぐ力」を育む」という教育スローガンを掲げ、各課による実施計画の策定、諸施策の実施等、適正な執行が確立され、教育委員会と市長部局が一体となって、津山市教育の充実・発展が図られた。		
自己評価	A		

具体的な施策	(2) 教育委員会規則及び規程を制定し、又は改廃すること	担当	教育委員会
実施結果	・ 教育委員会の活動状況(4)(5)案件参照。 - 条例（協議案件）・・・制定0件、改正15件、廃止1件 - 規則等・・・制定3件、改正8件、廃止2件		
自己評価	A		

具体的な施策	(3) 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の設置、廃止に関する事	担当	教育委員会
実施結果	・平成 26 年 3 月 31 日付で津山市立阿波小学校の閉校と加茂小学校への統合を実施した。 (3 月 22 日阿波小学校閉校式)		
自己評価	A		

具体的な施策	(4) 教育委員会事務局及び教育機関の職員の任免その他の人事に関する事	担当	教育委員会
実施結果	・職員の任免その他の内申		
自己評価	A		

具体的な施策	(5) 県費負担に係る校長の任免その他の人事の内申に関する事	担当	教育委員会
実施結果	・校長の任免その他の人事についての内申		
自己評価	A		

具体的な施策	(6) 県費負担に係る教職員の人事の内申に関する事	担当	教育委員会
実施結果	・教頭・教諭等の人事についての内申		
自己評価	A		

具体的な施策	(7) 教育予算その他市議会の議決を経るべき事件について意見を申し出ること	担当	教育委員会
実施結果	・教育予算その他市議会の議決を経るべき事件について意見を申し出ることについて審議した。		
自己評価	A		

具体的な施策	(8) 法令等で定められた諮問機関の委員を委嘱すること	担当	教育委員会
実施結果	・ 1 8 の委員会 (審議会) の委員を委嘱及び任命した。		
自己評価	A		

具体的な施策	(9) 学齡児童・生徒の就学すべき学校区域を設定し 又はこれを変更すること	担当	教育委員会
実施結果	・平成 26 年 4 月 1 日から加茂小学校の学校区域に阿波地域を追加、実施した。		
自己評価	A		

具体的な施策	(10) 教科用図書の採択に関する一般方針を定める こと	担当	教育委員会
実施結果	・該当事項無し。		

具体的な施策	(11) 市重要文化財を指定及び解除すること	担当	教育委員会
実施結果	・津山市指定重要文化財 1 件を新たに指定し、1 件の解除を行った。		
自己評価	A		

具体的な施策	(12) 請願、陳情、訴訟及び異議の申立てに関するこ と	担当	教育委員会
実施結果	・該当事項無し。		

具体的な施策	(13) 教育に関する事務の管理及び執行の状況の 点検及び評価等に関すること	担当	教育委員会
実施結果	・点検・評価シートにより、4 つの項目について実施した。 ・教育振興基本計画における重点取組の進捗状況を記載した。 ・学識経験者を選定し、点検・評価の総評をお願いした。 ・点検・評価 達成度一覧により、点検評価項目ごとの達成状況を明示した。 ・教育委員会の活動状況を項目ごとにまとめた。		
自己評価	A		

3. 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

自己評価	B
------	---

- 1 個の確立とつなぐ力を育む【学校教育】 -	自己評価	B
--------------------------	------	---

(1) 義務教育の充実	自己評価	B
---------------	------	---

【項目の総合評価】

確かな学力の向上		担当課	学校教育課 教育総務課
施策の実績概要 と 評価理由	学校教育が抱える課題を明らかにした、平成28年度までの中期的な実施計画である「津山市学校力向上推進プラン」に基づき施策を推進した。その結果、岡山県学力・学習状況調査の結果において、2教科で県平均を上回るという目標は達成できた。		
今後の課題と 方向性	「津山市学校力向上推進プラン」をもとに、学力の向上、生徒指導・不登校支援、特別支援教育の推進を確実にを行い『わかる授業、学ぶよろこび、楽しい学校』の実現を目指す。 今後、本プランを確実に実施するために、津山市の教育の改善に向けて、家庭・地域・教育委員会が一体となって協力して学校支援に取り組む必要がある。 推進プランの実現に向け、学校現場も最大限の努力をするが、将来を担う人材を育成するためにも、市としても人的・物的・財政的な支援を充実させる必要がある。		
		自己評価	B

【主な取組の実施結果と成果】

ア 計画的な施策の推進		担当課	学校教育課
実施結果と成果	平成28年度までの中期的な実施計画である「津山市学校力向上推進プラン」に基づき、津山市で課題とされている、学力向上、生徒指導・不登校支援、特別支援教育に重点的に対応した。		
今後の課題と 方向性	本プランに基づく施策を着実に実施し、年度ごとに成果を検証するとともに、学力向上のための授業改善に重点的に取り組む。		
		自己評価	A

イ 今後求められる「確かな学力」の向上		担当課	学校教育課
実施結果と成果	平成28年度までの中期的な実施計画である「津山市学校力向上推進プラン」に基づき、施策を推進した。 「げんぼプロジェクト事業」等により学校の校内研究体制を支援するとともに、独自の学力調査の導入により、学力の実態把握や検証を行うことができた。 多くの学校で学校研究が充実・活性化し、県の学力・学習状況調査では、2教科で県平均を上回るという目標を達成できた。		
今後の課題と方向性	今後、「津山市学校力向上推進プラン」をもとに、学力の向上が図れるよう施策を推進するとともに、小中学校9年間を見通した学力の検証サイクルの確立に努める。		
		自己評価	A

ウ 学校の教育力の向上		担当課	学校教育課 教育総務課
実施結果と成果	(学校教育課) 学力向上、生徒指導・不登校支援、中一ギャップの解消のため、「津山市小・中学校連携事業」を推進しており、中学校ブロックでの取組は定着してきている。また、学力向上に向けては、小中学校をつなぐ課題(春休みの課題)の作成、「学習の約束」の中学校区ごとに統一した取組、家庭学習の保護者への啓発などを実施した。 北陵中学校区での取組(平成24年度～25年度)については、県のポスターセッションで成果を発表することができた。また、中学校区単位での研修会も計画的に実施した。「津山市げんぼプロジェクト事業」では、積極的な授業公開を進めることができ、教職員の指導力向上につながっている。 (教育総務課) 教職員の指導力向上のため、パソコン導入計画(平成19年度～25年度)に従って、平成25年度では全教職員(正職員)への校務用パソコンを整備することができた。 また、平成21年度に策定した「学校電子情報セキュリティポリシー」を運用しており、各学校ごとの「学校電子情報セキュリティポリシー」を作成するよう依頼し、学校で所有する個人情報等の管理・漏洩防止に努めた。		
今後の課題と方向性	学校力向上推進プランをもとに「わかる授業・学ぶよろこび・楽しい学校」を目指し、小・中学校連携事業、校内研究事業等の取組を一層推進する。特に、教職員の指導力の向上を図るための各種研修会の開催や、授業改革推進員による、校内研究を充実させ、学校の教育力の向上を図る。 平成25年度でパソコン導入計画最終年度を迎えたことから、平成26年度からの計画の策定を行う必要がある。また、校内LAN等環境整備や、新たな学校間ネットワークの構築に向けた情報収集と研究が必要である。		
		自己評価	B

エ 家庭の教育力の向上		担当課	学校教育課
実施結果と成果	子どもの家庭生活について、テレビの視聴時間が長いことや家庭学習時間が少ないことが、津山市の課題である。課題改善に向け、各校の実態把握をもとに、家庭学習の習慣化に取り組んだ。また、「津山市小・中学校連携事業」とも関連させ、中学校ブロックでの取組を進めている。 さらに、「チャレンジ・ハッピーデー」「げんぼくんの家庭学習」等と合わせて、リーフレット、ワークシートを使つての家庭への啓発やPTAと連携した活動等で、家庭学習の習慣化や生活リズムの定着を図った。特に、定期的な生活実態調査の実施により、児童生徒への意識づけにつながった。		
今後の課題と方向性	現在の取組を継続的に推進し、家庭での学習時間0時間の児童生徒が0%になることを目指す。		
		自己評価	B

オ 地域の教育力の活用		担当課	学校教育課
実施結果と成果	津山洋学資料館や津山郷土博物館等の津山にある教育資源の活用を図るため、「My Townつやま活用事業」等で児童・生徒が教育施設を訪問し学習を深めた。また、生涯学習課と連携し、学校支援地域本部を市内22校に導入し、学習支援ボランティアの活用や地域人材を学校に招へいするなど、その活用を行った。		
今後の課題と方向性	「My Townつやま活用事業」を中心に、郷土津山への理解を進めるとともに、学校支援地域本部を市内全校に導入し、地域資源を積極的に活用する。		
		自己評価	B

【平成25年度主要事業の実施状況】

事業名	事業概要	決算額 (千円)	担当課
津山市小・中学校連携事業	中学校区ごとの小・中学校が連続性と一貫性を持って、学力の課題や学習環境の課題について先進地の視察や研修会等を実施	182	学校教育課
学力向上げんぼプロジェクト研究推進事業	「つやまっ子の学びを高めるための“3つの提案6つの取組”」の推進のため、授業改革を進め、市町村教育委員会指定研究校を拡充する「学力向上げんぼプロジェクト研究推進事業」を開始し、校内研究の充実と研究成果の市全体への共有を図った。	1,000	学校教育課

事業名	事業概要	決算額	担当課
確かな学力向上プロジェクト事業	市独自に標準的学力調査を小学校において実施し、その上で、必要に応じて通常の学級に在籍する児童について個別の教育支援計画を策定するなどし、具体的、継続的な教育支援を図った。	1,386	学校教育課
教員用のパソコンの配置	導入計画に従って、教員が校務のために使用するパソコンを配備。	14,256	教育総務課

【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (策定時)	目標値	実績及び達成率				
				H 2 4	H 2 5	H 2 6	H 2 7	H 2 8
学力状況調査 (国・県)	調査結果の各科目 平均正答率(国・ 算(数)・社・ 理)	国語・社会 以外の科目 で岡山県平 均を下回る。	各科目で岡 山県平均を 上回る	全科目で 県平均を下 回る 達成率 0.0%	2教科で県 平均を上 回る 達成率 100.0%			
事業の進捗状況及び今後の課題と方向性								
学力向上に向けて、平成28年度までの中期的な実施計画である「津山市学校力向上推進プラン」に基づき施策を推進した。今後は、県の事業である「授業改革推進リーダー・授業改革推進委員配置事業」を積極的に活用しながら、学力向上及び授業改善に重点的に取り組むとともに、本市の研究指定事業である「学力向上げんぼプロジェクト研究推進事業」を推進し、校内研究の充実と研究成果の市全体での共有を図る。								
取組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (策定時)	目標値	実績及び達成率				
				H 2 4	H 2 5	H 2 6	H 2 7	H 2 8
学習習慣の状況	学校の授業時間以外で、普段、1日当たりの家庭学習0時間の児童生徒の割合	小 6年生 3.8% 中 3年生 8.1%	小 6年生 0.0% 中 3年生 0.0%	震災の影響により 悉皆調査は 未実施	小6年生 2.2% 中3年生 8.3%			
事業の進捗状況及び今後の課題と方向性								
津山市の家庭学習については、定期的に状況把握をしてきている。また、各小中学校もPTAと連携し取組を進めていることから、今後、さらに定着していくと考えている。家庭学習を全くしない子の割合は小学校においては県平均よりも改善傾向にあるが、中学校では依然、横ばいの状況である。今後も継続的に状況把握と啓発を進めていくことが必要である。								

【項目の総合評価】

豊かな心の育成		担当課	学校教育課
施策の実績概要 と 評価理由	豊かな人間性、社会性、規範意識を育む体験活動の推進、自尊感情の育成のため、様々な施策を通して全市的な啓発活動を進めてきた。全国及び県の学習状況調査の結果からも、「あいさつ」「地域行事への参加」等についての肯定的な回答が県平均より高く、子どもと地域とのつながりの深さが表れた結果となっており、一定の成果は表れていると考える。		
今後の課題と 方向性	今後もこれまでの施策を継続的に推進し、豊かな心の育成に努める。		
		自己評価	B

【主な取組の実施結果と成果】

ア 豊かな心の育成		担当課	学校教育課
実施結果と成果	豊かな人間性、社会性、規範意識を育む体験活動の推進、自尊感情の育成のため、学校・家庭・地域が連携して「あいさつ運動」「60・15キャンペーン」「チャレンジ・ハッピーデー」を活用した全市的な啓発活動を進めてきた。 「My Townつやま活用事業」を活用した郷土学習や地域学習の取組は定着してきた。 全国及び県の学習状況調査の結果からも、「あいさつ」「地域行事への参加」等についての肯定的な回答が県平均より高く、子どもと地域とのつながりの深さが表れた結果となっており、一定の成果は表れている。 また、各学校に図書司書、図書整理員を配置し、読書環境の整備や啓発活動を推進し、教育の充実を図った。		
今後の課題と 方向性	徐々に成果は見られており、平成26年度はモデル校を指定し、自然体験・生活体験活動の充実に取り組む。		
		自己評価	B

イ 道德教育の充実		担当課	学校教育課
実施結果と成果	道德的な心情等の育成のため、学校での道德教育の充実に努めてきた。学校では、道德の時間以外での道德に関わる指導内容と時期を整理した道德教育の全体計画・別葉を作成し、学校教育全体で道德の指導を計画的に推進することができた。 県の研究指定（岡山県道德教育実践事業）を受けた学校の教員と中・四国ブロック指導者研修に参加した教員による研修報告を津山市内の道德教育推進教師の研修会と兼ねて開催したり、道德の授業公開を推進したりするなど、教員の資質向上を図った。		
今後の課題と 方向性	平成26年度は、国の指導者養成研修や県の道德授業力向上研修会等に教員を派遣し、その成果を市内に普及するなどして、道德の教科化へ向けて取組を更に進める。		
		自己評価	B

ウ 情報モラル教育の充実		担当課	学校教育課
実施結果と成果	インターネットや携帯電話の不用意な利用により、ネットいじめ等の事案が増加していることから、小・中学校全校で情報モラルの授業を行うなどの取組を推進した。 岡山県総合教育センターのサテライト講座による教職員向け情報モラル研修を行ったり、岡山県警察本部が実施している各学校における非行防止教室の中でも、インターネットモラル教室を実施した。 また、携帯電話等の安全な利用のためには、保護者への啓発活動も欠かせないことから、携帯電話の児童用啓発チラシの配付等も行った。		
今後の課題と方向性	情報教育を進める中で、インターネットや携帯電話だけでなく、SNS等の危険性に対する対策についても啓発を図る。		
		自己評価	B

エ 問題行動の解消に向けた取組の充実		担当課	学校教育課
実施結果と成果	全小学校5年生と全中学校1年生に「hyper-QU検査（楽しい学校生活を送るためのアンケート）」を実施し、学級の実態を把握にもとづいた学級経営を行った。 不登校の未然防止のために、「不登校支援リーフレット」を作成するとともに、不登校対策担当や教育相談担当への研修を実施したりするなど、未然防止に向けての取組を徹底して行う校内体制づくりに取り組んだ。また、「不登校児童生徒の記録用紙」を活用し、アセスメントをもとに個々のケースへの適切な支援ができるように取り組んだ。長期化する児童生徒については、鶴山塾やボボロ津山と連携して登校支援や学習支援を行った。その結果、不登校児童生徒数は減少傾向にある。		
今後の課題と方向性	登校支援員等を配置して取り組む「不登校対策実践研究事業」や「規範意識向上モデル校指定事業」等の県の事業を活用するなど、不登校を含めた問題行動の課題解決に努め、問題行動認知件数が県平均と同等に改善することを目指す。		
		自己評価	B

【平成25年度主要事業の実施状況】

事業名	事業概要	決算額 (千円)	担当課
Q - U 検査実施事業	全国平均を上回っている本市の小中学校の不登校や長期欠席者の出現率の改善（楽しい学校生活を送るためのアンケート）を実施	1,743	学校教育課
小中学校図書館司書、図書整理員の配置	小中学校図書館へ図書司書、または図書整理員を配置の実施	52,918	教育総務課

【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取 組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (策定時)	目標値	実績及び達成率				
				H 24	H 25	H 26	H 27	H 28
児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査	問題行動認知件数の岡山県平均(1000人当り)	岡山県平均を下回る	岡山県平均値より改善する	県平均との比較 小 + 2.4件 中 + 8.5件 達成率 0.0%	県平均との比較 小 - 0.4件 中 + 7.1件 達成率 50.0 %			
	不登校出現率の岡山県平均(1000人当り)	岡山県平均を下回る	岡山県平均値より改善する	県平均との比較 小 + 0.2人 中 - 1.8人 達成率 50.0%	県平均との比較 小 - 0.16人 中 - 0.56人 達成率 100.0%			
事業の進捗状況及び今後の課題と方向性								
現在、平成25年の状況調査の集計中であり、実績値は、平成24年度の状況を集計し、平成25年度に公表されたものである。本市においては、問題行動件数、不登校者数ともに減少傾向である。今後も学校力向上推進プランの確実な実施により、出現率の改善を図っていく。								
取 組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (策定時)	目標値	実績及び達成率				
				H 24	H 25	H 26	H 27	H 28
中学校における職場体験の拡充	職場体験日数	3 日	5 日	実績 5 日 1 校 達成率 100.0%	実績 5 日 1校/2校 達成率 50.0%			
事業の進捗状況及び今後の課題と方向性								
中学校での職場体験の充実のため、5日間の職場体験校の拡充を目指したが、実現することができなかった。生徒数に見合う受け入れ企業数の確保が難しいこと、日程・体験内容等の調整が難しいこと、新指導要領の実施に伴う授業数確保との調整が必要であることなど、課題も多く難しい。								

【項目の総合評価】

健やかな体の育成		担当課	学校教育課 保健給食課
施策の実績概要 と 評価理由	小学校では「チャレンジランキング」等の普及を図り、体を動かすことへの興味・関心を高めるとともに、新体力テスト結果をもとに、各校で、児童・生徒の運動面の成果と課題を把握し指導に活かした。 その結果、平成25年度「全国体力・運動能力、運動週間等調査」の結果では、多くの項目において運動能力が全国を上回った。 また、「津山市学校給食食育将来計画」に基づき、学校・地域・家庭との連携を図りながら、食教育の推進や、食生活に関するアンケートを実施し、基本的な生活習慣の把握に努めた。		
今後の課題と 方向性	各校で、児童・生徒の運動面の成果と課題を把握し指導の一層の充実を図る。また、学校給食で把握した課題の解消に向け、学校・地域・家庭と連携し、児童生徒の健やかな体の育成を図る。		
		自己評価	B

【主な取組の実施結果と成果】

ア 学校体育の充実		担当課	学校教育課
実施結果と成果	全校で実施している新体力テスト結果をもとに、各校で、児童・生徒の運動面の成果と課題を把握し指導の充実を図った。 また、体育の授業以外の外遊びの機会提供のため、体育的な要素を含んだ集団遊びのメニュー「チャレンジランキング」を学校に紹介し、その普及を図った。直接的に児童の運動能力向上につながるわけではないが、記録に挑戦することを通して運動の楽しさや感動を味わわせ、運動の習慣化を図ること、体力の向上につなげる目的で実施した。		
今後の課題と 方向性	今後も継続的に「チャレンジランキング」の学校への普及と啓発に努めるとともに、児童生徒の体力づくりの推進を図る。		
		自己評価	B

イ 基本的な生活習慣の改善		担当課	保健給食課
実施結果と成果	小学生(5年生)及び中学生(2年生)を対象に「食生活に関するアンケート」を実施し、児童生徒の食生活の実態の調査と分析に努めた結果、夜型の生活により早起きができず、朝食を食べない子どもたちが少なからず存在するなど、課題の把握につながった。 夏休みの親子料理教室(23小学校54名参加)を開催し、自分で作る楽しさを味わうとともに、母親委員朝食づくり講座にや給食試食会などに参加し、児童生徒のみならず、保護者の食に対する理解を深めた。		
今後の課題と 方向性	親子料理教室や給食試食会などに継続的に取り組むとともに、アンケートで把握した課題の解消に向けて、家庭・学校と連携し「早寝・早起き・朝ごはん」の啓発に努める。		
		自己評価	B

ウ 教育活動全体を通じた食育の推進		担当課	保健給食課
実施結果と成果	各学校で作成した「食に関する指導の全体計画」に基づき、栄養士や栄養職員が学校を訪問し食指導を実施したほか、食物アレルギーをもつ児童生徒に対して食材に関する情報提供を行った。また、「給食だより」を有効に活用し、児童生徒のみならず保護者に対しても食育の重要性を伝えた。		
今後の課題と方向性	今後も、学校はもちろん、地域や関係機関と連携しながら、食育の重要性を引き続き広報する。		
		自己評価	A

エ 食文化の継承		担当課	保健給食課
実施結果と成果	学校給食における旬の食材や地場産食材の活用状況を、全家庭へ配付する献立表に記載し、児童生徒及びその保護者へ知らせるとともに、行事食や伝統食について「給食だより」や「ひとくちメモ」等で紹介した。また、「夏休み親子料理教室」とは別に、地域の食文化や食材を活用した「親子料理教室」を、7小学校で開催した。		
今後の課題と方向性	学校給食だけでなく、家庭科や社会科の授業等とも連携し、食文化の継承に努める。		
		自己評価	A

【平成25年度主要事業の実施状況】

事業名	事業概要	決算額 (千円)	担当課
食教育推進事業	「津山市学校給食食育将来計画」に基づき、学校・地域・家庭との連携を図りながら、親子料理教室や研修会等の食教育推進を実施	462	保健給食課

【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (策定時)	目標値	実績及び達成率				
				H 24	H 25	H 26	H 27	H 28
運動の習慣化の促進	体育の授業以外に、児童生徒が進んで体を動かしたり、外遊び行ったりする場や機会を設定する学校の割合	64%	100%	実績値 87% 達成率 63.9%	実績値 69% 達成率 13.9%			
事業の進捗状況及び今後の課題と方向性								
県の実態調査によると、ほとんどの学校で取組が進んでいる。また、チャレンジランキングについては、一宮小学校、南小学校、院庄小学校、北小学校などは、成績上位校として表彰されるなど、市内全体での取組は広がりつつある。								
取組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (策定時)	目標値	実績及び達成率				
				H 24	H 25	H 26	H 27	H 28
基本的な食習慣の定着	朝食を毎日食べる子	小学生 87.4% 中学生 80.4%	小学生 95.0% 中学生 95.0%	小学生 85.3% 達成率 0.0% 中学生 83.8% 達成率 23.3%	小学生 80.5% 達成率 0.0% 中学生 79.6% 達成率 0.0%			
事業の進捗状況及び今後の課題と方向性								
朝食を毎日食べる子の割合は減少した。県の調査による小学校5年生の平均(84.9%)も下回っている。中学校2年生は平均(78.5%)は上回っているものの、昨年度より減少している。今後も朝食の重要性を周知するとともに基本的な食習慣の定着に向けた啓発を継続する。								
取組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (策定時)	目標値	実績及び達成率				
				H 24	H 25	H 26	H 27	H 28
地場産品の活用	年間を通して学校給食に地場産品を使用する割合	31.20%	40.00%	実績値 33.8% 達成率 29.5%	実績値 35.2% 達成率 45.5%			
事業の進捗状況及び今後の課題と方向性								
地場産品の活用など地産地消に努めた結果、年間を通じて学校給食に地場産品を使用する割合が、前回の33.8%から35.2%へ向上した。食材調達ルート再構築を検討しており、今後一層の地場産品の活用に向けた取組みを継続する。								

【項目の総合評価】

特別支援教育の充実		担当課	学校教育課
施策の実績概要 と 評価理由	「津山市特別支援教育推進センター」を設置し、学校、児童生徒、保護者へのニーズに応じた支援を推進し、本市における特別支援教育の充実に努めた。また、特別支援教育体制整備に係る諸事業についても円滑に推進できた。		
今後の課題と 方向性	今後、特別な支援を必要とする児童・生徒の増加が見込まれ、就学指導についても課題は多い。「津山市特別支援教育推進センター」を拠点として、本市における特別支援教育の充実に図る。		
		自己評価	A

【主な取組の実施結果と成果】

ア 療育と学齢期をつなぐ就学相談体制の充実		担当課	学校教育課
実施結果と成果	就学相談の機会や内容の充実のため、「津山市特別支援教育推進センター」を拠点とし就学相談・教育相談による保護者への支援を進めることができた。		
今後の課題と 方向性	今後、相談体制の周知を図るとともに、早期からの相談体制の充実に図る。		
		自己評価	A

イ 小中学校における特別支援教育の充実		担当課	学校教育課
実施結果と成果	特別支援教育に係る教員への情報提供や研修の充実のためのセンター的機能を持つ「津山市特別支援教育推進センター」を設置することができた。教員の指導力向上のため、学校での特別支援教育の推進を担当する特別支援教育コーディネーターの研修会を年3回実施し、指導力の向上を図った。さらに、ネクストリーダー研修会を開催し次世代のリーダーの育成を図るとともに、事例収集を行ったが、実践ガイドブックを作成するまでの事例が蓄積できなかったことから、今後も継続的に取り組む。 各校における「個別的教育支援計画」の策定と「個別の指導計画」の作成100%を達成し、計画的な支援体制の整備を推進できた。		
今後の課題と 方向性	「早期からの教育相談・支援体制整備事業」を活用するとともに、「津山市特別支援教育推進センター」を拠点にした取組を一層推進し、本市における特別支援教育の充実に努める。		
		自己評価	A

ウ 障害がある児童生徒の自立に向けた支援		担当課	学校教育課
実施結果と成果	障害がある児童生徒、保護者の支援のため、また医療等関係機関や庁内関係部署と緊密な連携を図るため、津山市発達障害支援関係者連絡協議会を2回開催し関係機関の課題を共有することができた。		
今後の課題と方向性	今後は、学期1回継続的に会を開催し、津山市における発達障害等の支援体制整備を目指す。		
		自己評価	B

【平成25年度主要事業の実施状況】

事業名	事業概要	決算額 (千円)	担当課
特別支援教育推進事業	早期からの教育相談支援体制の構築 通級指導の充実	575	学校教育課

【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (策定時)	目標値	実績及び達成率				
				H24	H25	H26	H27	H28
個別の教育支援計画の策定	個別の教育支援計画の策定を行っている学校	小学校 89% 中学校 62%	小中学校 100%	実績値 小学校 100% 中学校 88% 達成率 75.5%	実績値 小学校 100% 中学校 100% 達成率 100%			
事業の進捗状況及び今後の課題と方向性								
今年度、小・中学校において特別支援学級に在籍する全ての児童生徒について策定できている。今後は、通常学級に在籍している児童生徒にも範囲を広げ、計画的、継続的な支援につなげていく。								

【項目の総合評価】

開かれた学校づくり		担当課	学校教育課 生涯学習課
施策の実績概要 と 評価理由	開かれた学校づくりに向け、学校評価の公開と学校評議員会の活用に取り組んできた。平成25年度は、全ての小中学校の学校評価の結果を津山市のホームページで公開することができた。また、学校支援ボランティアについても、担当教員を校務分掌に位置付けたり、学校支援地域本部の導入を推進するなど、体制づくりを行ってきた。		
今後の課題と 方向性	開かれた学校づくりに向けた体制整備を進めるにあたって、学校評価等の公開に向けたシステムづくりが必要である。学校とも連携しながら学校の情報発信や学校評価の公開の推進に取り組む。		
		自己評価	A

【主な取組の実施結果と成果】

ア 学校評価の取組と学校評議員制度の充実		担当課	学校教育課
実施結果と成果	学校と保護者・地域がお互いに理解を深め、開かれた学校づくりを推進するため、各校が行っている学校評価結果の公表を積極的に推進してきた。平成25年度は公表様式を統一するとともに、本市の重点課題を共通項目に位置づけるなどして、学校自己評価の結果を津山市のホームページで全校公表することができた。 また、現在全ての学校で学校評議員会が設置されており、学校運営についての地域の意見を校長に伝えたり、助言するなど、その役割を果たしている。		
今後の課題と 方向性	学校の取組や状況について、学校と保護者・地域がお互いに理解を深めるとともに、学校が説明責任を果たすため、学校評価の結果の公表を更に推進します。		
		自己評価	A

イ 学校支援ボランティア活動の推進		担当課	学校教育課 生涯学習課
実施結果と成果	開かれた学校づくりを進めるため、地域連携担当教員を校務分掌に位置付けるとともに、地域連携担当者が機能するよう担当者会を開催するなど、地域の教育力を活用し、学校教育をより充実させるよう努めた。 また、生涯学習課と連携して、「学校支援地域本部事業」の実施拡大と学校支援ボランティアの登録者数を増やす取組を進めた。 地域の人々が学校を応援する体制づくりを進めるため、各小中学校及び公民館を中心に学校支援ボランティアを募集し、その登録者数が平成24年の2,444人から平成25年度は2,500人となった。 また、学校支援地域本部事業の実施校が平成24年度の9校から平成25年度には22校に増加し、地域と連携した教育の推進が進んでいる。		
今後の課題と 方向性	地域連携担当が機能するように担当者研修会を開催したり、生涯学習課と連携して「学校支援地域本部」の市内全校へ導入し、地域の教育力活用に向けた取組を一層推進する。 今後、学校支援地域本部事業の拡大に伴い、学校支援ボランティアへの登録者数もさらに増加すると予想され、それに伴う予算確保が必要である。		
		自己評価	A

【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取 組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (策定時)	目標値	実績及び達成率				
				H 24	H 25	H 26	H 27	H 28
学校支援地域本部事業の充実	学校支援地域本部を設置している小学校数	小学校 3 校	小学校 2 8 校	小学校7校 中学校2校 計 9校 達成率 24.0%	小学校19校 中学校3校 計 22校 達成率 76.0%			
事業の進捗状況及び今後の課題と方向性 地域が学校を応援する体制づくりが進み、平成25年度は、小学校19校、中学校3校で学校支援地域本部事業に取り組んだ。今後は、平成26年度には28校以上での事業実施を目指し、学校訪問等を行い、実施体制を整備していく。								

(2) 教育環境の充実	自己評価	B
-------------	------	---

【項目の総合評価】

安全・安心の学校づくり		担当課	学校施設課 保健給食課
施策の実績概要 と 評価理由	子どもたちが安全・安心な空間で学び生活することができるよう、耐震補強・大規模改修工事を着実に実施するとともに、セキュリティ体制強化のための施設・設備の整備に努め、よりよい教育環境の整備を図った。 また、学校における衛生面での安全・安心を確保するため、飲料水やプール水の水質検査、保健室寝具のダニアレルゲン検査を実施した。		
今後の課題と 方向性	学校施設の耐震補強・大規模改修及びセキュリティ体制強化のための施設整備を計画的に実行していく。 また、水質検査、ダニアレルゲン検討等を継続して実施することで、学校の環境衛生の向上を図り、児童生徒の安全を確保する。		
		自己評価	A

【主な取組の実施結果と成果】

ア 学校施設の耐震化と老朽化施設の改修		担当課	学校施設課
実施結果と成果	平成21年5月に策定した「津山市立小中学校の耐震化推進計画の基本方針」に基づき、施設の耐震補強と大規模改修を計画的に実施しており、本年度は4棟（鶴山小学校体育館、向陽小学校体育館、佐良山小学校体育館、広戸小学校体育館）の工事を完了し、小学校4校・中学校4校の校舎は現在工事中で平成26年度の完成予定である。 また、平成26年度から着手する小学校1校の校舎棟及び体育館、小学校1校の校舎棟について、実施設計を行った。 良好な学習環境の確保を目的として、施設の基本的な機能（消防・放送・電気設備等）の回復や老朽化した設備の更新などを行うため、津山市学校施設更新整備方針を策定した。		
今後の課題と 方向性	耐震補強工事は平成26年度で完了の予定で、今後は整備方針に基づき計画的な年次的な施設整備を行う。		
		自己評価	A

イ 学校施設・設備の整備による安全・安心の確保		担当課	学校施設課
実施結果と成果	不審者の侵入防止対策として、中正小学校と一宮小学校の2校へフェンスを設置、広野小学校と勝加茂小学校の2校へ防犯カメラを設置し、学校のセキュリティ体制を強化した。		
今後の課題と 方向性	囲障や防犯カメラを未整備の小学校から順次計画的に整備し、学校のセキュリティ体制を強化していく。		
		自己評価	A

ウ 学校の環境衛生		担当課	保健給食課
実施結果と成果	学校の飲料水(5月・10月)やプール水(6月)の水質検査、保健室寝具のダニアレルゲン検査(9月)を小中全校(久米中のみプールなし)で実施した。		
今後の課題と方向性	学校の環境衛生の向上を通じて、児童生徒の安全を確保するため、今後も検査を継続して実施する。教室の夏場の室温についても調査研究していく。		
		自己評価	A

【平成25年度主要事業の実施状況】

事業名	事業概要	決算額 (千円)	担当課
小中学校地震補強・大規模改造事業	実施設計(新規2校を実施。平成24年度からの繰越6校。)	233,233 (内新規 21,641)	学校施設課
〃	耐震補強工事(新規1校を実施。平成24年度からの繰越9校。仮設校舎・工事監理業務を含む。8校は平成26年度へ繰越。)	3,066,341 (内新規 30,101)	学校施設課
安全・安心対策事業	囲障等設置(2校)、防犯カメラ設置(2校)	3,972	学校施設課
学校の環境衛生事業	学校における衛生面での安全・安心を確保するため、計画的に衛生検査を実施	1,117	保健給食課

【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (策定時)	目標値	実績及び達成率				
				H24	H25	H26	H27	H28
学校施設の耐震化状況	小中学校の耐震化率	68.9%	98.3%	実績値 79.6% 達成率 36.4%	実績値 81.9% 達成率 44.2%			
事業の進捗状況及び今後の課題と方向性								
学校施設の耐震補強・大規模改修計画を前倒して実行できており、耐震化推進計画事業の平成26年度完了を目指す。 (目標値には、閉校となった阿波小学校を含む。阿波小学校を除くと100%となる。)								

【項目の総合評価】

安全・安心に配慮した学校給食の充実		担当課	保健給食課
施策の実績概要と評価理由	年間を通じて、学校給食における魅力ある献立の作成、安全性の確保、衛生管理の徹底等を図り、地場産品の活用など地産地消に努めた結果、年間を通じて学校給食に地場産品を使用する割合が、平成23年度の33.8%から平成24年度は34.4%、平成25年度は35.2%と年々向上している。 また、公平・公正な学校給食の提供に不可欠である学校給食費の未納解消に向けて、未納者に対する支払督促を裁判所に申し立てた。		
今後の課題と方向性	公平・公正かつ効率的な給食の実現に向けて、より安全・安心に配慮した魅力ある学校給食を目指す。		
		自己評価	A

【主な取組の実施結果と成果】

ア 魅力ある献立の作成		担当課	保健給食課
実施結果と成果	郷土食や伝統料理、季節感のある行事食等を取り入れ、充実した献立づくりに努めるとともに、給食食材納入業者の協会の、J A、県学校給食会等と連携し、地場産品の活用拡大など、地産地消の推進を図り、食材の運搬距離の低減により、環境負荷にも配慮できた。 また、公平・公正な学校給食の提供に不可欠である学校給食費の未納解消に向けて、未納者に対する支払督促を裁判所に対して申し立てた。		
今後の課題と方向性	地産地消の推進に向け、食材調達ルートの見直しを実施する。		
		自己評価	A

イ 安全性の確保		担当課	保健給食課
実施結果と成果	食品添加物の少ない食材や地場産品等、より安全性の高い食材の確保に努めた。 また、食物アレルギーの対応について、さらに安全性を高めるため意見書の内容を見直し、医師の診断に基づいた6品目の除去食を実施した。		
今後の課題と方向性	衛生管理の徹底と安全性の向上を目指す。		
		自己評価	A

ウ 衛生管理の徹底		担当課	保健給食課
実施結果と成果	学校給食衛生管理基準に則した施設整備とアレルギー対応のため、戸島学校食育センターの改修工事を行うとともに（仮称）津山市東部学校給食センターの建設に着手した。		
今後の課題と方向性	衛生管理の徹底と更なる向上のため施設整備を行う。		
		自己評価	A

【平成25年度主要事業の実施状況】

事業名	事業概要	決算額 (千円)	担当課
環境保全給食関連事業	学校給食から発生する調理くずや食べ残し、廃油、食器類、包装材などを資源物として循環させ、環境負荷低減を実施	1,190	保健給食課
学校給食費未納対策事業	学校給食費の未納解消に向け、支払督促等、学校と連携・協力した取組を実施	239	保健給食課
学校給食施設等整備事業	学校給食衛生管理基準に則した施設整備とアレルギー対応のため、戸島学校食育センターの改修工事を行うとともに（仮称）津山市東部学校給食センターの建設に着手	193,504	保健給食課

【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (策定時)	目標値	実績及び達成率				
				H24	H25	H26	H27	H28
学校給食衛生管理基準に則した施設整備	現行基準への適合	-	100%	1施設 達成率 6.25%	1施設 達成率 6.25%			
事業の進捗状況及び今後の課題と方向性								
4つの給食センター及び12の単独調理校のうち現行基準に適合した施設は、戸島学校食育センターのみであり、学校給食衛生管理基準に則した2箇所目となる大型センターの整備を進め、平成26年2学期からの稼働を目指す。								

【項目の総合評価】

良好な教育環境の維持・向上		担当課	教育総務課 学校施設課
施策の実績概要 と 評価理由	平成24年9月に制定した学校施設の安全かつ適切な使用や施設使用料の負担などについて定めた津山市立学校施設使用条例を、平成25年4月から施行した。使用団体登録、施設使用許可申請等の手続きを行い、適正使用の周知を実施した。 学校校務については、前年度と同じく7名の集中管理体制で行い、児童生徒の安全・安心に重点を置き施設点検を中心とする業務を実施した。		
今後の課題と 方向性	学校施設の使用に関して手続きや管理等の課題を検証し、より適切な使用の啓発を行う。 学校施設の維持管理については、学校校務の集中管理体制の廃止により民間が担える業務については委託するなど効率的な運用を実施する。		
		自己評価	B

【主な取組の実施結果と成果】

ア 小中学校の適正規模・適正配置		担当課	教育総務課
実施結果と成果	「津山市立学校の適正な規模や配置等に関する基本方針」に基づき、保護者、学校、地域の理解や協力を得ながら小学校の統合を進め、平成25年度は阿波小学校において実施した。一方で、学校の適正な規模や配置等の具体的な検討のため、将来の児童生徒数等の予測を行うための情報収集等を行っているが、作業部会の設置・開催には至っていない。		
今後の課題と 方向性	今後は、市長部局が策定する津山市第5次総合計画と連動・連携しながら、将来の児童生徒数を予測し、調査研究を進める必要がある。		
		自己評価	B

イ 民間活力の導入		担当課	学校施設課
実施結果と成果	学校校務の集中管理業務において、平成25年度は前年度と同じく7名体制で学校施設の点検など児童生徒の安全・安心に重点を置き業務を行った。 定員適正化計画に基づき学校校務の集中管理体制が平成26年4月から廃止されることに伴い、学校施設の適正な維持管理について組織体制の見直しを実施し、民間委託できる業務の検証を行った。		
今後の課題と 方向性	学校校務の集中管理体制の廃止により、児童生徒の安全性の確保、コストの削減などを考慮しつつ民間委託を行い、学校施設の効率的な維持管理を実施する。		
		自己評価	A

ウ 学校施設の開放と使用料等の適正化		担当課	学校施設課
実施結果と成果	学校施設の使用手続きや遵守事項、施設使用料等を定めた「津山市立学校施設使用条例」を平成24年9月に制定し、平成25年4月から施行した。 使用団体登録、施設使用許可申請などの手続きを行い、使用団体に対して学校施設の適切な使用の周知を実施した。 使用団体登録 245団体		
今後の課題と方向性	使用団体からの苦情等はないが、登録等の手続きや施設使用に関して課題を検証し、引き続き適切な使用の啓発を行う。		
		自己評価	A

エ 教育委員会の活性化		担当課	教育総務課
実施結果と成果	「平成25年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価報告書」の作成・公表を行い、教育委員会の活性化に取り組んだ。 また、「広報つやま」や津山市のホームページを活用し、教育委員会の施策や教育活動の周知に努めた。		
今後の課題と方向性	教育委員会事務局内での事務執行が効率的かつ効果的に行えるよう、総合調整機能の充実に努める。また、地域の実情に合わせた教育行政を展開することができるよう、教育委員会関係課をはじめ市長部局、関係団体とのさらなる連携を強化し、市民ニーズを的確にくみ取り、教育行政の活性化に努める。ホームページの充実に努め、市民へ教育委員会の周知を図る。		
		自己評価	A

【平成25年度主要事業の状況】

事業名	事業概要	決算額 (千円)	担当課
「津山市の教育」の作成	教育活動の状況や教育委員会の施策の周知を行うため、冊子「津山市の教育」を作成します。	195	教育総務課

【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (策定時)	目標値	実績及び達成率				
				H24	H25	H26	H27	H28
小中学校の適正規模・適正配置	津山市立学校整備審議会の設置	-	設置	実績なし 達成率 0.0%	実績なし 達成率 0.0%			
事業の進捗状況及び今後の課題と方向性								
平成24年度に学校の適正な規模や配置等の具体的な検討のための、将来の児童生徒数等の予測を行うための情報収集等を行っているが、審議会の設置には至っていない。今後は、将来の児童生徒数を予測するための調査研究等を必要に応じて実施し、市長部局と連携しながら進めていく必要がある。								
取組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (策定時)	目標値	実績及び達成率				
				H24	H25	H26	H27	H28
施設使用料等の適正化	使用料等の区分、金額等の設定	-	設定	設定済 達成率 100%	実施 達成率 100%			
事業の進捗状況及び今後の課題と方向性								
平成24年9月に制定、平成25年4月から施行した津山市立学校施設使用条例に基づき、使用団体登録等の手続きを実施し、適切な使用の周知を行った。今後も引き続き使用団体に対して、より適切な施設使用の周知徹底を図る。								

- 2 身近な人々のつなぐ力を育む【家庭・地域教育】 -	自己評価	A
------------------------------	------	---

(1) 青少年の健全育成の推進	自己評価	A
-------------------	------	---

【項目の総合評価】

青少年健全育成の総合的な推進		担当課	生涯学習課
施策の実績概要 と 評価理由	津山市教育振興基本計画にのっとり、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たしつつ、連携しながら社会全体で「つなぐ力を育む」取組を進め、青少年の“自立と社会性”を育て、“心豊かで健やかな青少年”を育成するための活動を推進するなど、青少年健全育成については、基本的な施策ごとに実施できた。		
今後の課題と 方向性	今後も引き続き、青少年健全育成のため、学校・家庭・地域・行政・教育委員会が連携しながら、健全育成活動の充実に向けて取り組んでいかなければならない。		
		自己評価	A

【主な取組の実施結果と成果】

ア 健全育成のための連携強化		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	青少年育成センター指導員による街頭指導活動を強化するため、ほぼ2か月に1度の割合で2班体制の活動を行い年間計473回の指導を行ったほか、少年サポートセンターとも毎月2回合同補導を実施した。 また、市内高等学校生徒指導担当教諭や保護者とイベント時の特別補導を実施し、青少年育成指導委員等と連携してサマーナイトパトロールを実施し青少年の夏休み期間中の夜間徘徊防止に取り組んだ。平成25年度の青少年の街頭指導者数は、前年度より5.9%増加した。 津山っ子を守り育てる市民の会とともに、津山市総合福祉会館で「津山っ子こころのふれあいトーク」を実施、また、中道中学校で「街づくり人づくりクリーン作戦アピール集会」を行い、各中学校単位での取り組みを発表した。		
今後の課題と 方向性	今後も引き続き、関係機関と情報交換を行い、連携を図る必要がある。		
		自己評価	A

イ 青少年健全育成事業の推進		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	津山市子ども会連合会と５月から７月まで、美作大学や津山中央公民館で野外塾を３回、８月に２泊３日のサマーキャンプを黒木キャンプ場で実施し、子ども会活動の支援を行った。 また、津山市少年少女発明クラブを月２回津山高専で実施し、工作活動や様々な体験ふれあい活動を通じて青少年の自主性や創造性を育てる活動や学習に取り組んだ。 さらに、指導者育成のため、津山市子ども会育成指導者研修会を中央公民館で実施し、テント設営や飯盒炊飯での屋外調理実習を行った。		
今後の課題と方向性	青少年の自主性や創造性を育てる活動や学習を推進するため、今後も引き続き取り組む必要がある。		
		自己評価	A

【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (策定時)	目標値	実績及び達成率				
				H24	H25	H26	H27	H28
街頭指導活動 の充実	青少年育成センターによる巡回指導の回数	年間270回	年間350回	年間 478回 達成率 260.0%	年間 473回 達成率 253.8%			
事業の進捗状況及び今後の課題と方向性								
指導員の勤務体制を見直して月曜日４名、火曜日～金曜日３名とし、毎日少なくとも２名での巡回指導を実施するように努めた。また、ほぼ２か月に１度の割合で月曜日午後は２班体制で巡回指導を行った。 今後も街頭指導の強化を行うとともに、指導員の後継者育成が必要である。								

【項目の総合評価】

相談、支援体制の整備と社会参加の促進		担当課	生涯学習課
施策の実績概要と評価理由	複雑化する相談内容に対応するため、他機関との情報交換や専門家との連携を通じた具体的支援を進めた。 また、家庭環境を含めた子育てや教育に関する相談が多くなってきており、不登校等の子どもが学校に復帰し、社会的自立ができるよう支援を行い、公的相談機関としての役割を果たした。		
今後の課題と方向性	支援の必要な家庭や子どもたちへのかかわりを進めるため、関係機関等とさらに連携を強めていく。		
		自己評価	A

【主な取組の実施結果と成果】

ア 相談体制の充実		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	多様化、深刻化する相談内容に対応するため、教育相談センター鶴山塾や青少年育成センターで相談、助言、支援活動の充実を図った。また、市内小中学校や保育所・幼稚園などへ啓発チラシ等の配布及びホームページによる相談業務の周知を行った。 さらに、大学准教授や臨床心理士、学識経験者等による専門相談も実施し、義務教育修了後の青少年の相談や教職員の相談にも応じたほか、年間6回の休日相談日も設けた。		
今後の課題と方向性	多様な相談内容に対応するため、学校やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等との連携を強め、支援の必要な子どもや保護者への相談・支援体制の充実を図る。		
		自己評価	A

イ 支援体制の整備と社会参加の促進		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	不登校児童生徒や課題を抱えた子ども等の継続的な支援に向け、関係部署や関係機関等との連携を深め、ケースに応じてサポート会議を開催し、役割を明確にしながら、子どもたちの支援を行った。 また、ニートやひきこもり等の支援が必要な義務教育修了後の青少年の社会参加へ向け、関係機関と協力し個別支援方を講じ、継続的な支援を行った。		
今後の課題と方向性	複雑化する相談内容に対応するため、引き続き他機関と情報交換しながら相談・支援を進めるほか、義務教育修了後の青少年を対象にした社会的自立支援を行う。		
		自己評価	A

ウ 啓発活動		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	青少年の健全育成に向け啓発活動として、鶴山塾の活動に対する理解が深まるよう「リーフレット」や「教育相談だより」を配布したほか、「広報つやま」へ定期的に掲載を行った。 また、各種団体への講師派遣や研修視察の受け入れを行ったほか、子どもたちの理解を深める教育講演会や子育てフォーラム、事例検討会等を教職員や保護者、地域の方を対象に開催した。		
今後の課題と方向性	鶴山塾の事業内容をさらに広く、深く知っていただくため、チラシや通信、広報つやま等を通じて啓発活動を行う。		
		自己評価	A

【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (策定時)	目標値	実績及び達成率				
				H 24	H 25	H 26	H 27	H 28
支援ネットワーク連携会議の開催	関係機関との情報の共有化・支援の具体化を図るため、支援ネットワークを構築し、定期的な連携会議の開催	—	年間6回	年間5回 達成率 83.3%	年間12回 達成率 200%			
事業の進捗状況及び今後の課題と方向性								
関係機関との1対1個別会議(例「鶴山塾と学校教育課」「青少年育成センターと学校教育課」等)を発展させた支援ネットワーク連携会議を開催した。また、鶴山塾の役割やあり方、不登校対策・義務教育修了後の支援のあり方について、教育長、学校教育課、青少年育成センター等と意見交換を5回実施した。 今後、不登校対策や青少年の社会的自立支援のため、より個に応じた支援を進める。さらに、義務教育修了後の青少年の支援については、他の機関へもつないでいく。								

(2)家庭・地域の教育力の向上	自己評価	A
-----------------	------	---

【項目の総合評価】

学校・家庭・地域が連携した教育の推進		担当課	生涯学習課 図書館
施策の実績概要 と 評価理由	家庭・地域の教育力向上について、学校支援ボランティアや学校支援地域本部事業実施校の増加・拡充を通じて地域が学校を支援する体制づくりを進めたほか、放課後子ども教室の推進を通じて子どもの居場所づくりや体験活動の充実を図った。また、保護者同士のつながりを深めるワークショップの開催を通じて、PTA活動の活性化を図った。 つやまっ子読書プランの推進については、平成26年～30年を実施期間とする「第3次津山市子ども読書活動推進計画」を策定したほか、市立図書館や人権啓発課と連携し音読大会等を開催した。 図書館では、資料を市内の大学や高校との相互利用や小学校等への貸出に活用したほか、地元スポーツ団体と協力した本の読み聞かせを行った。また、おすすめ本の紹介をした後、一番読みたくなった本を決定するビブリオバトルを開催するなど、図書館機能を活かした読書活動を推進した。（団体への貸出冊数：計64,528冊）		
今後の課題と 方向性	学校支援ボランティア及び学校支援地域本部事業の推進では、平成26年度は2,600人の登録と28校以上で実施をめざしている。また、放課後子ども教室は、17教室への増加をめざしている。 つやまっ子読書プランの推進については、学校、家庭、地域が連携した読書活動の推進、家庭教育向上につながる読み聞かせの推進、指導者の資質向上や次代の担い手を育む取組みにつながる研修会等の開催を行う。		
		自己評価	A

【主な取組の実施結果と成果】

ア 地域社会の教育力の向上		担当課	生涯学習課 図書館
実施結果と成果	学校支援ボランティアは、現在2,500名の登録となり、学校内外で見守り活動や授業等で子ども達を支援している。また、学校と地域が連携して教育を進める学校支援地域本部事業については、平成24年度の9校から平成25年度には22校に実施校を大幅に増加させたほか、放課後子ども教室は、平成24年度の14教室から平成25年度は16教室で実施した。 図書館は、美作大学、津山工業高等専門学校を始め、市内の6高校と連携し、資料の相互利用や講演会の開催など読書環境の整備を図った。 また、津山中央病院医療情報プラザとの業務提携により、来館困難な入院患者に対する資料の貸出サービスや、医療、健康等の情報交換も行った。（貸出冊数：美作大学 494冊、津山高専 153冊、高校 1,754冊、津山中央病院 693冊、計3,094冊）		
今後の課題と 方向性	学校支援ボランティア登録数及び学校支援地域本部事業実施校については、平成26年度は2,600人、28校以上での実施をめざしている。また、放課後子ども教室は、17教室へ増加をめざしている。また、図書館では、今後も効果的に事業推進するために、学校や関係機関との連携を強化する。		
		自己評価	A

イ 連携体制の強化		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	子どもの健全育成については、青少年育成センター、鶴山塾、津山っ子を守り育てる市民の会、青少年育成指導委員連絡会、津山市子ども会連合会など関係機関や団体との連携を進め、事業に取り組むことができた。 学校・家庭・地域を結ぶ役割を果たすため、PTA活動の活性化を目的としてPTAリーダー研修会、PTA教育講演会などを開催した。また、PTA研修では、を「阿波幼小PTA」の実践発表なども行い、地域の教育力の啓発に努めた。 さらに、優良PTAを対象とした表彰では、一宮小学校PTAが文部科学大臣表彰を、阿波小学校と前津山市PTA連合会長が全国PTA連合会長表彰を受賞した。		
今後の課題と方向性	子どもの健全育成を行うため、関係機関や団体との連携や協働を進めるほか、PTAの活性化を図りながら保護者同士のつながりを増やし、地域の教育力向上に努めます。		
		自己評価	A

ウ 読書活動の推進		担当課	生涯学習課 図書館
実施結果と成果	子ども読書活動では、「第2次津山市子ども読書活動推進計画（つやまっ子読書プラン）」に基づき、親子音読大会、教科書音読コンテスト、イクメン音読大会、読書インタビューなどを実施した。また、学校司書や読書ボランティアなどを対象にした研修会をそれぞれ開催した。さらに、平成26年～30年を実施期間とする「第3次津山市子ども読書活動推進計画」を策定した。 図書館では、各小学校のニーズに応じて、自動車文庫の巡回や学校図書館への資料貸出等を行い、子どもたちの読書環境の充実と読書活動の推進を支援したほか、地元サッカーチームの選手による本の読み聞かせも行い、地域での読書活動を通じた子育て力の向上を図った。 また、市内の大学生・高校生を発表者にしたビブリオバトル（書評合戦）を館内で初めて開催し、図書の魅力を引き出すことによる利用増加を図った。		
今後の課題と方向性	子どもの読書活動を推進するため、第3次津山市子ども読書活動推進計画（つやまっ子読書プラン）に基づき、家庭教育向上につながる読み聞かせ推進や音読大会、指導者研修会を開催する。 また、各学校の蔵書管理や利用環境等には相違があることから、各種情報の共有化を図りながら、読書活動の推進を行う。		
		自己評価	A

【平成25年度主要事業の実施状況】

事業名	事業概要	決算額 (千円)	担当課
学校支援地域本部事業	学校支援ボランティアの活用をさらに進め、地域ぐるみによる学校支援の意義を啓発するとともに、組織的に学校を支援する「学校支援地域本部事業」の拡大取組を実施	4,100	生涯学習課
放課後子どもプラン推進事業	放課後の子どもの安全で健やかな居場所作りのために、運営委員会の開催、「放課後子ども教室」と「放課後児童クラブ」の連携、「放課後子ども教室」の委託を実施	5,280	生涯学習課
げんぼくん寺子屋わくわく事業	子どもたちの学力向上と地域の人間関係づくりを進めるために、休日などに公民館等を利用した、地域の大人たちによる寺子屋を実施した。	900	生涯学習課
つやまっ子読書プラン推進事業	読書プランを推進するため、親子音読大会や教科書音読大会による啓発、「お薦め読書カード」の取組等を実施	200	生涯学習課
地域スポーツ団体連携事業	地元のサッカーチーム選手を招いて本の読み聞かせを行い、読書推進を図った。	20	図書館
子育て支援事業	図書館ボランティアと協働で、子どもへ本の紹介や読み聞かせを行ったほか、子育て講演会等も行い、子育て力の向上を図った。	285	図書館

【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (策定時)	目標値	実績及び達成率				
				H24	H25	H26	H27	H28
学校支援ボランティア活用事業	教育支援、環境整備、安全支援等の学校支援ボランティア登録者数	2,009人	3,000人	2,444人 達成率 43.9%	2,500人 達成率 49.5%			
事業の進捗状況及び今後の課題と方向性								
地域が学校を応援する体制づくりが進み、学校支援ボランティアの登録者数が平成25年度は、2,500名であった。今後は、平成26年度の登録者数を2,600人を目指し啓発を進めていく。								

【項目の総合評価】

家庭教育への支援		担当課	生涯学習課 学校教育課
施策の実績概要 と 評価理由	家庭教育の重要性について保護者の意識向上と社会への啓発を目的として家庭教育チラシ配布やフェイスブックなどで情報発信を行った。 また、PTA対象研修会、親子論語教室、家庭教育推進事業、親子ふれあい教室（幼稚園13園）、公民館等を活用した津山市連携型家庭教育支援事業等を通じて、教職員やPTA向けの親学講座や家庭教育支援ワークショップ等を開催した。		
今後の課題と 方向性	つやまっ子家庭教育推進事業、公民館等を活用した津山市地域連携型家庭教育支援事業を中心に、保護者への啓発や学習機会の提供を行うほか、保護者や地域の人間関係づくりを進めるようなワークショップを学校、保育所（園）、幼稚園、公民館等と連携して行う。		
		自己評価	A

【主な取組の実施結果と成果】

ア 情報の提供		担当課	生涯学習課 学校教育課
実施結果と成果	（生涯学習課） 家庭教育の重要性や保護者への意識啓発を図るため、乳幼児などの保護者が集まる「津山市子どもまつり」や「音読大会」などで家庭教育に関するパネル展示やチラシを配付した。また、「公民館等を活用した津山市連携型家庭教育支援事業」を活用して作成した家庭教育手帳を乳幼児や小学生の保護者へ広く配付した。さらに、フェイスブックにより子育てワンポイントアドバイスを発信した。 （学校教育課） 学校・家庭・地域が連携して「あいさつ運動」「60・15キャンペーン」「チャレンジ・ハッピーデー」を活用した啓発活動を推進した。		
今後の課題と 方向性	家庭教育の重要性や意識啓発を図るため、学校・家庭・地域が連携し、家庭教育についての啓発チラシやフェイスブックなどでの情報発信を行う。		
		自己評価	A

イ 学びの推進		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	家庭教育や親子のふれあいの大切さについて、PTA役員対象ワークショップ研修（1回30人）、親子論語教室（3回110人）、親学講座（小28校、中8校）、親子ふれあい教室（幼稚園13園）、公民館等での親学講座等を開催し広く家庭教育に関する学びを進めた。また、保護者同士や地域で支え合う人間関係づくりの大切さについて、教職員やPTA向けに家庭教育支援ワークショップ（12回330人）を開催した。さらに、親子で参加し学びを進める絵本作家読み聞かせ＆お話会（1回400人）、親子で楽しむ民話の会（1回60人）も開催した。		
今後の課題と 方向性	「つやまっ子家庭教育推進事業」で家庭教育親学講座や親子ふれあい教室などを実施するほか、「公民館等を活用した津山市連携型家庭教育支援事業」で地域の人間関係づくりを通じた家庭支援の体制づくりを進める。		
		自己評価	A

ウ 相談体制の充実		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	教育相談センター鶴山塾では、子どもを取り巻く家庭環境や子育ての悩み等、複雑化する相談内容に対応するため、通常の面接相談・電話相談に加え、臨床心理士や学識経験者等による専門相談を実施した。また、関係機関と連携し相談体制の充実を図り、主に小・中学生の通塾支援や訪問支援など具体的な支援に努めた。 義務教育修了後の青少年を対象にした教育相談も実施したが、具体的な支援の難しいケースもあり、他機関へのつなぎを行った。		
今後の課題と方向性	相談内容が多様になってきており、学校、関係機関、スクールカウンセラー、ソーシャルワーカーなどとの連携がより必要で、今後も、互いの役割を分担しながら更なる相談体制の充実を図っていきたい。		
		自己評価	A

【平成25年度主要事業の実施状況】

事業名	事業概要	決算額 (千円)	担当課
家庭教育推進事業	津山市版家庭教育手帳を活用し、小中学校区ごとに親学講座を開催し、子どもの学力・体力の低下、生活習慣の乱れ、さらに家庭や地域の教育力等の社会的課題に対する取組を実施	990	生涯学習課
親子の学校事業	郷土学習やキャリア学習など、体験を中心とした親子での活動の場所を設け、郷土への誇りや働く人を敬う心を育てるとともに、親子のきずなを深めた。	710	生涯学習課

【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (策定時)	目標値	実績及び達成率				
				H24	H25	H26	H27	H28
家庭教育親学講座・家族ふれあい教室の開催	小中学校での親学講座・家族ふれあい教室の参加者数	4,706人	5,000人	4,709人 達成率 1.0%	4,868人 達成率 55.1%			
事業の進捗状況及び今後の課題と方向性 今後、学校、保育所（園）、幼稚園、公民館等との連携を強化し、家庭教育親学講座や家族ふれあい教室など保護者の学習機会をより充実させるとともに、参加体験学習による保護者の人間関係づくりを通じた家庭教育力向上もはかる。								

【項目の総合評価】

地域資源を活用した学習の推進		担当課	生涯学習課
施策の実績概要と評価理由	ふるさと津山に対する関心や理解をより進め、郷土への愛着を高めることを目的と、歴史や文化、産業などについて知る学習機会を提供した。また、公民館運営方針の中に地域資源を活用した学習活機会の提供を掲げ、各公民館の主催講座や文化祭、他団体との共催事業等において地域の歴史や文化を学ぶ機会を提供した。		
今後の課題と方向性	多くの地域団体に、津山の歴史や文化を見直す学習を呼びかけていき、地域づくりにつながる活動を支援することが必要である。		
		自己評価	A

【主な取組の実施結果と成果】

ア 地域資源の活用		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	美作国建国1300年記念事業や公民館主催講座で、地域の歴史や文化、農産物等について認識を深め、地域を見直すような学習機会を提供し、多くの参加者があった。(7館延62回1,185人)また、津山の歴史や文化、産業などについて親子で学び、津山への愛着と親子のふれあいを深める「親子の学校」(7回200人)を開催した。 さらに、「親子ろんご教室」を城東むかし町家(旧梶村邸)で開催することで、規範意識の醸成とともに、地域の歴史や文化について市民の理解をより進めた。		
今後の課題と方向性	公民館等を中心に、地域の歴史や文化等について認識を深め、地域のよさを見直し地域理解につながる学習機会を提供する。また、講座等の開催場所として、津山にある歴史的な建物など地域資源の活用に努める。		
		自己評価	A

イ 学習機会の充実		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	津山の歴史や文化に関連した内容を取り上げた、大人の社会科見学、市民講座(縄文土器のはなし・縄文土器づくり講座)などを開催したほか、美作大学と連携した美作学講座や、親子で参加し、津山の歴史や文化、産業などについて学ぶ「親子の学校」を開催した。 また、公民館講座の中で、弥生の里文化財センターや洋学資料館などで学芸員や地域の専門家の話を聞き、津山に対する関心を深め、ふるさとを見直す学習機会を設けた。		
今後の課題と方向性	大人を対象にした学習機会の提供に加え、子ども達が地域の歴史や文化、産業などについて学ぶ機会をさらに充実させ、郷土への愛着を高め将来の定住にもつながる講座企画をより進める。		
		自己評価	A

ウ 関係機関との連携・協力		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	新規事業として、津山の歴史や産業などについて親子で学び、津山への愛着と親子のふれあいをより深める「親子の学校」(7回200人)を、新産業創出課や地元企業等と連携し開催した。また、美作大学と連携し「美作学講座～美作国の郡衙を探る～」(4回280人)を開催したほか、勝北陶芸の里工房や津山郷土博物館等と連携した「大人の社会科見学」(6回150人)を開催した。 さらに、津山市少年少女発明クラブを津山工業高等専門学校と、津山市子ども野外塾を美作大学とそれぞれ連携して開催し、学習機会の充実に務めた。		
今後の課題と方向性	津山市の歴史や文化、産業などについて知り、郷土への愛着を高めるような学習機会を提供するため、関係機関との連携をさらに深めていくことが必要である。		
		自己評価	A

【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (策定時)	目標値	実績及び達成率				
				H 24	H 25	H 26	H 27	H 28
公民館における地域学習の開催	公民館で開催する地域学習講座に参加した人数	1,051人	1,300人	1,415人 達成率 146.2%	1,185人 達成率 53.8%			
事業の進捗状況及び今後の課題と方向性								
主催講座として、多くの公民館で地域の歴史や文化、人材などの地域資源を活用した学習機会を提供する取組みを推進し、目標達成を図る。								

- 3 過去から現在、未来へつなぐ力を育む 【生涯学習・スポーツ・文化】 -	自己評価	A
---	------	---

(1) 生涯学習環境の整備	自己評価	A
-----------------	------	---

【項目の総合評価】

生涯学習の推進		担当課	生涯学習課
施策の実績概要 と 評価理由	「第3次津山市生涯学習推進計画」をより推進し、「豊かな人間性を育む生涯学習社会」、「ふるさと津山を愛する教育文化都市」、「未来を拓く共創・協働社会」の実現を掲げ、関係部署間の連携と生涯学習機会の充実を図ることができた。		
今後の課題と 方向性	「第3次津山市生涯学習推進計画」をより推進するため、今後より関係部署間の連携を強化し、生涯学習の推進を図る。		
		自己評価	A

【主な取組の実施結果と成果】

ア 生涯学習の推進		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	「第3次津山市生涯学習推進計画」をより推進し、「豊かな人間性を育む生涯学習社会」、「ふるさと津山を愛する教育文化都市」、「未来を拓く共創・協働社会」の実現を掲げ、こども課や人権啓発課など首長部局の関係部署との連携を進め、津山市生涯学習関連事業として151講座を開設し、生涯学習の機会の充実を図ることができた。また、第3次推進計画の実施期間の延長に伴い、数値目標の見直しを行った。		
今後の課題と 方向性	「第3次津山市生涯学習推進計画」をより推進するため、関係部署間の連携をより進め、生涯学習機会の充実を図る。		
		自己評価	A

イ 協働による生涯学習推進体制の確立		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	生涯学習推進体制の充実を図り、生涯学習による人づくりや地域づくりにつなげるため、市長をトップとする生涯学習推進本部会議のほか、生涯学習推進本部幹事会、生涯学習推進懇談会等を開催し、関係部署間の連携を図り、全庁をあげた生涯学習推進体制充実と生涯学習関連事業を実施した。		
今後の課題と 方向性	生涯学習推進本部会議、生涯学習推進本部幹事会、生涯学習推進懇談会などにより関係部署間の連携をより進め、津山市の生涯学習推進体制の充実を図る。		
		自己評価	A

【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取 組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (策定時)	目標値	実績及び達成率				
				H 24	H 25	H 26	H 27	H 28
生涯学習関連事業	市の各部署が実施した生涯学習関連事業のA評価(達成率95%以上)の割合	90%	95%	89% 達成率 0.0%	88.1% 達成率 0.0%			
事業の進捗状況及び今後の課題と方向性								
生涯学習推進本部会議、生涯学習推進本部幹事会、生涯学習推進懇談会などの開催により、市関係部署間の連携をより進めながら、各部署が実施した生涯学習関連事業のA評価(達成率95%以上)の割合を向上させる。								

【項目の総合評価】

学習情報・機会の提供		担当課	生涯学習課
施策の実績概要 と 評価理由	生涯学習情報の提供では、広報紙やホームページに加え、フェイスブックを利用した情報発信に取り組むことができた。 市民が参加しやすい生涯学習の環境づくりでは、津山の郷土理解につながる「親子の学校」「大人の社会科見学」のほか、公民館を会場にした「公民館主催講座」や「公民館文化祭」などを開催し、市民の生涯学習を進めることができた。 学習機会の提供と支援体制の充実では、生涯学習情報紙「まなびい」の発行のほか、リクエスト大学を実施することができた。		
今後の課題と 方向性	市民の生涯学習推進のために市民ニーズの把握及び情報発信に努めるほか、市民向け講座についても公民館等と連携して実施する。		
		自己評価	A

【主な取組の実施結果と成果】

ア 生涯学習情報の充実		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	生涯学習講座などに関する情報をまとめた生涯学習情報紙「まなびい」を43,400部発行し、「広報つやま」を通じて全戸配布した。また、生涯学習課ホームページの定期的な更新に加え、講座や関連記事をフェイスブックを通じて情報発信を行った。さらに、年2回開催した津山市青年団体連絡協議会主催による公開討論会を津山テレビを通じて放映し、広く生涯学習について啓発を行った。		
今後の課題と 方向性	生涯学習に関する情報を、生涯学習情報紙「まなびい」の発行やホームページ、フェイスブックなどを通じて積極的に発信する。		
		自己評価	A

イ 市民が参加しやすい生涯学習の環境づくり		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	市内22公民館で市民の視点に立った公民館主催講座を開催したほか、公民館文化祭を通じて、生涯学習による学びの成果を発表する場の提供に努めた。さらに、勝北シルバー大学（8回、登録受講者85人）や格致大学（9回、登録受講者130人）など、高齢者向けの講座や教室等を開催し、地域住民の学習と交流の場を設けることができた。		
今後の課題と 方向性	公民館を中心に市民の視点に立った講座や教室等の開催や勝北シルバー大学、格致大学の開催を通じて、生涯学習の環境づくりを行う。		
		自己評価	A

ウ 学習機会の提供と支援体制		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	家庭教育支援につながる親学講座や保護者同士の関係づくりを進める講座など、時代の要求に応える講座を開催したほか、関係機関と連携し、地域の歴史や文化など津山への愛着を深める講座を開催した。また、生涯学習による人づくり、まちづくりにつなげるため、生涯学習リクエスト大学の内容充実を図った。 さらに、公民館では、行政による学習機会提供から、市民自らが生涯学習を企画運営する体制づくりに向けた支援を行った。		
今後の課題と方向性	市民のニーズ把握と必要課題の調査等により学習機会の見直しを進めるほか、生涯学習を通じた人づくり、まちづくりを積極的に進めるため、生涯学習リクエスト大学のメニューを充実させます。さらに、市民自らが生涯学習を推進する体制づくりのため、市民の自主運営型講座開設を支援する。		
		自己評価	A

【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取 組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (策定時)	目標値	実績及び達成率				
				H 24	H 25	H 26	H 27	H 28
生涯学習リクエスト大学	市が行っている仕事の中で市民が聞きたいこと、知りたいことを、市職員が講師となり講座を開催	利用件数 118件 参加者数 4,791人 講座数 42講座	利用件数 130件 参加者数 5,050人 講座数 45講座	利用件数 126件 達成率 66.7% 参加者数 5,385人 達成率 229.3% 講座数 44講座 達成率 66.7%	利用件数 191件 達成率 608.3% 参加者数 15,177人 達成率 4010.0% 講座数 42講座 達成率 0.0%			
平成25年度の生涯学習リクエスト大学の利用については、講座数としては42講座へ減少したものの、利用件数191件、参加者数15,177人参加者数が目標数を大きく超えるなど、多くの市民への学習機会を提供できた。								

【項目の総合評価】

拠点施設の整備		担当課	生涯学習課
施策の実績概要 と 評価理由	津山市の公民館空白地域を解消するため、地域住民との協働の手法で進めてきた津山東公民館整備事業を完了することができた。また、住民が安心・安全に公民館利用ができるよう計画的に公民館の整備改修を進める津山市公民館整備方針を採択した。 図書館については、市民の多様化・高度化する学習活動を支援するため、資料や情報の収集・整理・保存に努めるとともに、関係機関と連携した各種講演会や館内に設置された放送大学津山教室での教材の視聴などにより、地域の情報拠点・学習拠点として市民に役立つ図書館サービスの向上に努めた。 また、館内で音楽コンサートも行い、新たな魅力をアピールした。		
今後の課題と 方向性	公民館整備方針に基づき、計画的に老朽化や修繕の必要な公民館の整備等を行う必要がある。 また、公共図書館の果たすべき役割を十分認識し、開催行事を工夫するなど、広く市民の利用に供する体制を維持する。		
		自己評価	A

【主な取組の実施結果と成果】

ア 社会教育施設の整備と利活用促進		担当課	生涯学習課・ 図書館
実施結果と成果	津山市の公民館空白地域の解消と生涯学習推進の拠点整備を目的として、津山東公民館整備検討委員会とその作業部会を設置し、地域住民との協働の手法で進めてきた津山東公民館整備事業が完了した。また、老朽化した公民館の計画的な修繕等について、東苫田公民館のトイレを洋式化することができた。 図書館では、地域社会の様々な問題解決や地域振興の支援のため、関係団体・機関と連携してビジネス講演会や健康セミナー等の各種講座を開催し、情報・資料を提供した。（行事参加者：662人） 平成23年度に開設した放送大学岡山学習センター津山教室に、県北在学者の履修科目や一般市民に向けた資格取得、健康、歴史等人気の視聴教材を配架・提供するとともに（室内利用42回、室外DVD貸出30回）、同大学の教授陣による市民向け連携講座（歴史講座等）も開催した。		
今後の課題と 方向性	採択された公民館整備方針に沿って、計画的に老朽化等により改修や修繕の必要な公民館の整備を進めていく。 図書館においては、市民一人ひとりが生涯にわたり学習することができ、その成果を適切に活かせるよう、利活用を推進する。		
		自己評価	A

イ 施設運営への市民参画と民間活力の導入		担当課	生涯学習課・図書館
実施結果と成果	全市的な公民館の運営方針について公民館運営審議会で協議を進めた。また、各公民館ごとに設置している公民館活動推進協議会において、公民館活動の協議・運営を行った。 さらに、図書館では、子育て支援の一拠点として、約100人の図書館ボランティア等の協力により、おはなし会や工作教室を開催し、親子でふれあいながら本に親しみ、読書の楽しさを知るきっかけ作りを行った。（行事参加者：計2,922人） また、音楽を聞きながら読書を楽しむ試みとして、館内で初めて弦楽四重奏や邦楽（琴・尺八）のコンサートも行い、新たな利用者の獲得も行った。		
今後の課題と方向性	公民館運営審議会や公民館活動推進協議会等で市民参画をより進め、より利用しやすい公民館となるよう協議を進める。また、今後も図書館ボランティアとの協働による読書活動の導入を進め、魅力的な施設運営を図る。		
		自己評価	A

ウ 職員の資質向上		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	社会教育委員や公民館職員等を対象にした中四国地区研究大会へそれぞれ参加したほか、県生涯学習センター主催の研修会へ積極的に参加し、現代的課題に対する取り組み方を学習した。また、津山市でも社会教育委員、公民館長、学校支援地域本部に係る地域コーディネーター、学校司書、読書ボランティア等を対象に研修会を開催した。		
今後の課題と方向性	県などが行う社会教育に係る担当者研修会への積極的な参加と、津山市独自の研修会を通じて、職員の資質向上を図る。		
		自己評価	A

【平成25年度主要事業の実施状況】

事業名	事業概要	決算額 (千円)	担当課
公民館整備事業	公民館空白地域の解消と生涯学習活動の推進のため、津山東公民館整備事業（建築工事、備品費、需用費 他）を実施	196,569	生涯学習課
各種連携セミナー開催事業	各種の官・学・医療関係機関等と連携して講座を開催し、情報・資料の提供を行うとともに、地域産業の活性化も目指した。	55	図書館

【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (策定時)	目標値	実績及び達成率				
				H24	H25	H26	H27	H28
生涯学習施設での魅力的な企画づくり	公民館・図書館・スポーツ・文化施設等の利用者数	1,426,000人	1,515,000人	1,561,690人 達成率 152.5%	1,720,985人 達成率 331.4%			
事業の進捗状況及び今後の課題と方向性								
生涯学習を通じた人づくり、まちづくりを積極的に推進するため、公民館、図書館、スポーツ・文化施設などで魅力ある企画づくりと関係機関やボランティア等との連携を進め、魅力的な施設運営による利用者の増加を図る。								

【項目の総合評価】

生涯学習成果の活用		担当課	生涯学習課
施策の実績概要 と 評価理由	「津山市子どもまつり」や学校支援ボランティアでの積極的な地域人材の活用などを通じて、生涯学習による学びの成果を地域や学校で活かす仕組みづくりを進めることができた。また、学びの成果を持続可能な地域づくりに活かす生涯学習人材バンクの登録者数を増加させることができたほか、公民館など地域の拠点施設でも学びの成果を活用した様々な講座等を開催することができた。		
今後の課題と 方向性	市民の生涯学習による学びの成果が、地域課題の解決や持続可能な地域づくり、まちづくりに活かされるよう、意識啓発と体制づくりを進める。		
		自己評価	A

【主な取組の実施結果と成果】

ア 学習成果を活かす意識啓発		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	生涯学習による学びの成果を「津山市子どもまつり」や「津山市生涯学習まつり」「公民館文化祭」等の中で講師や発表者として活かすことができた。また、学校支援ボランティアの登録者を増やすことができたことで、大人が学んだ成果を地域の子供達へ還元する仕組みづくりをさらに充実させることができたほか、ボランティア関係者の資質向上をより図るための研修会も開催することができた。さらに、広報つやまに生涯学習人材バンクの促進記事を掲載したほか、人材リストを学校や公民館等へ配付し啓発に務めた。		
今後の課題と 方向性	学びの成果を地域で循環させ、地域づくりにつなげるよう意識啓発と体制づくりをさらに進める必要がある。		
		自己評価	A

イ 持続可能な地域づくり		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	生涯学習活動を通じた学びの成果を地域で循環させ、持続可能な地域づくりにつなげるため、生涯学習人材バンクへの登録者を増やし、生涯学習課からも斡旋し活用していただくことができた。（斡旋数18件、参加者数841名）また、公民館等を活用した家庭教育支援事業や親子学級、高齢者学級により、公民館が地域の拠点となり、保護者の人間関係づくりや子育ての悩みや不安の解消に努め、地域コミュニティづくりにつなげることができた。		
今後の課題と 方向性	生涯学習活動による学びの成果を活かした持続可能な地域づくりにつなげるため、生涯学習人材バンクの登録者を増やし、活用件数を増やす取り組みを進める必要がある。		
		自己評価	A

【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取 組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (策定時)	目標値	実績及び達成率				
				H 24	H 25	H 26	H 27	H 28
津山市生涯学習人材バンクの登録者数	生涯学習活動を推進・支援する人材を発掘、育成、活用するための仕組みを構築するもの	登録者数 46人	登録者数 120人	登録者数 62人 達成率 21.6%	登録者数 85人 達成率 52.7%			
事業の進捗状況及び今後の課題と方向性								
生涯学習活動を通じた学びの成果を循環させ、地域づくりなどへつなげるため、生涯学習人材バンクへの登録者を増やことができた。また、今後も、人材バンクへの登録者数をより増やす取り組みを進める。								

(2) スポーツ活動の支援と施設の活用	自己評価	A
---------------------	------	---

【項目の総合評価】

生涯スポーツの振興		担当課	スポーツ課
施策の実績概要と評価理由	「津山市スポーツ振興計画」に基づき、市民が健康で明るく活力ある生活を送ることができるよう、公的団体や地域と、利用する市民や競技者が一体となって、スポーツの機会を提供するとともに、スポーツニーズの多様化に対応するため、国県の指導者養成事業を活用し、関係機関・団体と連携を図りながら指導者の養成に努めた。また、「見るスポーツ」の啓発に努めるとともに、スポーツと観光・産業との連携、交流人口の拡大に取り組み、各種スポーツ行事のPRや関係団体の支援に努めてきた。		
今後の課題と方向性	「津山市スポーツ振興計画」に基づいた中長期的な視点のもと、さらに関係機関・団体と連携強化を図っていくとともに、市民のニーズを的確に把握し、時代に即応したスポーツメニューの提供を図っていく必要がある。		
		自己評価	A

【主な取組の実施結果と成果】

ア 生涯スポーツ社会の推進		担当課	スポーツ課
実施結果と成果	市民一人ひとりが、それぞれの体力・年齢・技術・目的に応じて、いつでも・どこでもスポーツに親しみ、楽しむことができる「総合型地域スポーツクラブ」の育成支援と生涯スポーツの推進を図った。 また、継続的に「つやま市民スポーツ祭」を開催することにより、更なるスポーツ人口の拡大を図った。		
今後の課題と方向性	すべての市民に、それぞれの体力、年齢、目的等に応じたスポーツの場が提供できるよう、地域でのスポーツ実践の場が増加するよう支援していく。また、平成25年度においては、「市民スポーツ祭」について、競技内容等アトラクションに工夫を加え実施しており、一定の前進をみている。		
		自己評価	A

イ スポーツ指導者の育成と活用		担当課	スポーツ課
実施結果と成果	スポーツ少年団認定指導員講習会等を通じての、人間性豊かで高い専門性を有する有資格指導者の計画的・体系的な育成と確保を行った。		
今後の課題と方向性	スポーツ少年団認定指導員資格取得を始めとして、各種個々のスポーツの専門的技術、資格取得のための更なる支援が必要である。		
		自己評価	B

ウ スポーツ活動の啓発とスポーツ関係団体の支援		担当課	スポーツ課
実施結果と成果	津山スポーツ振興財団、津山市体育協会、津山市スポーツ少年団等の組織・体制の充実の為の検討を加え、実施することにより、さらなる育成強化への支援を行ってきた。 また、岡山県をホームタウンとする、プロスポーツチームへの側面からの支援や活動内容の紹介を行った。		
今後の課題と方向性	津山スポーツ振興財団、津山市体育協会、スポーツ少年団等の横の連携により、各種団体の活動内容の紹介、さらには各種スポーツ教室、イベント等への参加への啓発を幅広く市民に浸透していく必要がある。		
		自己評価	A

【平成25年度主要事業の実施状況】

事業名	事業概要	決算額 (千円)	担当課
地域総合型スポーツクラブ育成事業	国・県も推進している地域総合型スポーツクラブ「しょうぼくスポーツクラブ」(会員数約400人)の各種教室や開催事業への支援及び育成を実施	4,000	スポーツ課
健康スポーツ推進事業	「つやま市民スポーツ祭」、全国から参加する「津山加茂郷フルマラソン全国大会」開催の支援 久米市民プール、グラスハウス等の健康増進施設の維持管理及び利用促進の実施	106,773	スポーツ課

【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (策定時)	目標値	実績及び達成率				
				H24	H25	H26	H27	H28
スポーツ指導者数	社会体育における指導者数	スポーツ推進員62人	スポーツ推進員67人	スポーツ推進員61人 達成率0.0%	スポーツ推進員59人 達成率0.0%			
		スポーツ少年団指導員684人【うち認定指導員326人】	スポーツ少年団指導員750人【うち認定指導員400人】	スポーツ少年団指導員672人【うち認定指導員328人】 達成率0.0%	スポーツ少年団指導員678人【うち認定指導員343人】 達成率0.0%			
		スポーツ教室指導員289人	スポーツ教室指導員350人	スポーツ教室指導員291人 達成率3.3%	スポーツ教室指導員509人 達成率360.6%			

事業の進捗状況及び今後の課題と方向性

平成24年度と比較してほぼ横ばいという状況にある。少子高齢化、人口減社会を迎え、スポーツ人口の増加を目指していくため、生涯スポーツの重要性を広く市民に認識していただくことが重要課題となっている。そのためにインターネット、広報紙等の情報手段を効果的に活用し、市民への啓発活動にも力を注いでいく必要がある。さらに育成指導者を増やしていくことが不可欠であり、指導者講習会や資格取得講習会等への受講を促し、有資格者の増加を図っていく必要がある。

【項目の総合評価】

スポーツ環境の整備		担当課	スポーツ課
施策の実績概要と評価理由	津山市スポーツ推進審議会や体育協会等の関係団体の意見を聞きながら、安全性の確保と利用者促進を図るため、計画的な施設の整備充実に努めるとともに、施設利用者の利便性向上に向けてホームページ等を使った情報発信を行ってきた。 また、指定管理者制度を導入している施設については評価検証を行う。施設の運営・改修等については、施設利用者から意見を聴き、市民ニーズを反映し、市民参画を積極的に推進した。		
今後の課題と方向性	施設整備については、各種スポーツ関係団体の意見を聞きながら、施設の老朽化、市民ニーズ等を勘案しながら、優先順位を定めて順次進めていく。また、市民ニーズを把握するためインターネットの活用を検討していく必要がある。		
		自己評価	B

【主な取組の実施結果と成果】

ア 施設の計画的な整備と利用促進		担当課	スポーツ課
実施結果と成果	経年劣化による雨漏り対策のため、西部小体育館屋根等の改修を行った。津山スポーツセンター野球場のブルペンを球場外へ移設、球場内の安全ラバーを更新し、利用者の安心安全な体育施設の整備を行った。スコアボードを全面塗装及び表示器具（BSO）の改修を行った。 また、ホームページによる情報発信を充実し、体育施設予約システムの改修、更新を行い、利用者の利便性の向上を図った。		
今後の課題と方向性	財政事情を考慮しながら、優先順位を定めて計画的に施設整備を進めていく。		
		自己評価	B

イ 施設運営への民間活力の導入と市民参画		担当課	スポーツ課
実施結果と成果	利用者サービス向上に向けた指定管理者制度等、民間活力導入の検討を行った。また、利用者アンケート等による施設利用者から意見を聴き、施設運営改善への反映を行った。		
今後の課題と方向性	合併後市域が広がり、各所にスポーツ施設が点在している。市民参画の視点から管理運営については、地域を含めた民間活力を導入していくことが必要である。		
		自己評価	B

【平成25年度主要事業の実施状況】

事業名	事業概要	決算額 (千円)	担当課
社会体育施設整備事業	老朽化した西部小体育館の屋根等の改修	24,754	スポーツ課
	津山スポーツセンター野球場のブルペン等の改修	45,158	

【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (策定時)	目標値	実績及び達成率				
				H24	H25	H26	H27	H28
スポーツ・運動 活動の拡大	社会体育施設の 年間利用者数	770,603人	800,000人	842,909人 達成率 0.0%	990,984人 達成率 0.0%			
事業の進捗状況及び今後の課題と方向性								
平成25年度については、市内中学校の校舎耐震化に伴い学校のグラウンドが使用できないため、東部運動公園グラウンドなどを使用したことにより、実績については大幅な増加となっている。しかしながら、社会体育施設の利用状況については、ある程度利用者が固定化しているのが現状である。今後、スポーツ人口の増加を目指して、施設の整備、インターネット等情報手段を利用した広報、啓発等を積極的に展開し、未利用者への呼びかけを行っていく必要がある。								

【項目の総合評価】

競技力の向上		担当課	スポーツ課
施策の実績概要と評価理由	競技力向上の環境を整えるため、津山市体育協会や津山市スポーツ少年団等が実施する、専門性を高めるための指導者研修会等を支援するとともに、優秀な選手の育成や確保のため、全国大会等に出場する選手を激励・顕彰し、競技力の向上への支援を行ってきた。 また、関係団体との競技力向上に向けた課題を共有し、連携強化を行った。		
今後の課題と方向性	競技力向上については、指導者の育成が重要であり、そのための具体的メニューを示して積極的に受講促進を促す必要がある。 また、優秀選手については津山市内外にその情報を発信し、津山市全体の競技力の向上に向けて取り組んでいきたい。		
		自己評価	A

【主な取組の実施結果と成果】

ア 競技スポーツの専門的指導者の育成・支援		担当課	スポーツ課
実施結果と成果	津山市体育協会や津山市スポーツ少年団等へ財政的に支援を行うとともに、他団体主催の各種研修会開催の情報提供を行い、専門的指導者育成のための支援を行った。 また、指導者の専門性を高めるため、スポーツ推進委員については、岡山県、中国地区、全国レベルの研修会に参加し、スポーツ少年団については、母集団研修会、指導者研修会、ソフトボール等の個々の競技の専門種目の研修会を開催してきた。また、体育協会においても育成指導委員会を中心としてスポーツ指導者研修会を随時開催しており、その開催のための支援を事務局として支援を行ってきた。		
今後の課題と方向性	スポーツ少年団の認定指導員の資格取得に向けて受講を促すとともに、専門性の高い指導者を育成するための支援策を構築していく必要がある。		
		自己評価	A

イ 全国大会等出場選手への支援		担当課	スポーツ課
実施結果と成果	優秀選手の顕彰を行うため、平成25年度においては、全国大会等に出場する選手の激励壮行会を27回開催し、151万5千円の激励金の交付を行った。種目については、陸上競技、テニス、サッカー、体操、柔道、剣道、空手等多種目にわたっている。		
今後の課題と方向性	全国大会等に出場する選手に対しての激励壮行会開催、激励金交付については、現状を維持する。優秀選手の顕彰については、インターネット等の情報発信手段を活用し、市内外に周知していく。		
		自己評価	A

ウ 関係団体への連携強化		担当課	スポーツ課
実施結果と成果	津山市体育協会、津山市スポーツ少年団、勝北スポーツクラブ、加茂海洋クラブ等各スポーツ団体の年間行事、活動についての情報交換、提供を行い、情報を共有するとともに、他団体主催の事業への参加、視察等も行い、横の連携の強化を図った。		
今後の課題と方向性	津山体育協会等市内スポーツ関係団体の横の連携がさらに必要であり、情報を共有することによる相互利用を目指す必要がある。		
		自己評価	B

【平成25年度主要事業の実施状況】

事業名	事業概要	決算額 (千円)	担当課
競技力向上事業	津山市体育協会、津山市スポーツ少年団、津山スポーツ振興財団、加茂海洋クラブ等の支援を通じた競技力の向上、また全国大会出場選手の奨励・顕彰を実施	15,470	スポーツ課

【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (策定時)	目標値	実績及び達成率				
				H 24	H 25	H 26	H 27	H 28
競技力の向上	全国大会出場者数	個人250件 団体 5件	個人300件 団体 7件	個人271件 団体 6件 達成率 42.0% 50.0%	個人260件 団体 3件 達成率 20.0% 0.0%			
事業の進捗状況及び今後の課題と方向性								
競技力については、年々少しずつながら確実に上昇傾向にある。今後も、現在の状態を維持しつつ、指導者の養成と並行して、体系・組織的に選手の育成に努めていく。								

(3) 芸術文化の振興、文化財の保存と活用	自己評価	B
-----------------------	------	---

【項目の総合評価】

市民文化の創造と継承		担当課	文化課
施策の実績概要 と 評価理由	津山市では市民や市民団体による自主的で多彩な文化活動が活発であり、その文化活動支援事業や発表・鑑賞機会の提供を実施し、多くの市民の参加や交流が促進された。また優れた芸術文化や伝統芸能の鑑賞機会を充実を図った。しかし新たな文化創造の担い手の育成や文化活動全体の底上げを目指し、より多くの子ども達や若者層の参加・交流が必要である。		
今後の課題と 方向性	国民文化祭や津山国際総合音楽祭などのこれまでの芸術文化活動の成果を踏まえ、幅広い年代の市民が多く参加・交流できるよう、より一層の芸術文化振興施策の充実を図る。		
		自己評価	B

【主な取組の実施結果と成果】

ア 文化事業の充実		担当課	文化課
実施結果と成果	市民の自主的な創造活動の支援と発表・鑑賞機会の提供を目的として、西東三鬼賞、津山市写真展、川柳大会、文化教室、文化のまちづくり事業（ミュージカルの公演）、学校での俳句教室、各文化センター自主事業などの芸術文化事業を実施した。特に美作国建国1300年記念事業として「NHK学園美作全国川柳大会」を開催し、NHK学園の全国的なネットワークと美作地域の川柳愛好家達の川柳による交流が図られ、文学振興に努めた。また「おかやま県民文化祭」メインフェスティバルや地域フェスティバル「美つくりの里・旅するアート2013」に参画し、期間中多くの来場者を迎え、津山市の歴史や多様な文化を体感して頂くことが出来た。なお、事業実施にあたっては広く市民にPRを心掛け、多くの市民が文化芸術に触れる機会の充実を図った。		
今後の課題と 方向性	これまでの芸術文化事業の充実を図るとともに、新しい事業の展開や参加者・応募者者の増加等に向けた取り組みを工夫していく。		
		自己評価	A

イ 文化活動への支援		担当課	文化課
実施結果と成果	津山市文化連盟や(公財)津山文化振興財団などの文化団体への支援を行い、市民の主体的な芸術文化活動の活性化を図った。特に今年度は津山市文化連盟も「おかやま県民文化祭」に参画し、文化団体の相互のネットワークを活かし、芸術文化活動による地域の活性化を図った。		
今後の課題と 方向性	文化団体との連携を更に強化し、芸術文化活動の充実を図る。		
		自己評価	A

ウ 推進体制の充実		担当課	文化課
実施結果と成果	総合的・効果的な文化施策の推進を図るため、県、（公財）岡山県文化連盟、津山市文化連盟、（公財）津山文化振興財団等と連携強化を図り、津山市の文化行政の推進体制の充実に努めた。ただ、市内で活動する市民・文化団体・NPO・企業等との津山市全体としての文化施策協働推進体制については、市民のニーズや専門家の意見を活かすとともに、津山市文化振興ビジョンを踏まえた課題や問題点の洗い出しが必要である。		
今後の課題と方向性	市内で活動する市民・文化団体・NPO・企業等との連携・協働体制推進に向けた課題や問題点の整理・検討に取り組む。		
		自己評価	B

【平成25年度主要事業の実施状況】

事業名	事業概要	決算額 (千円)	担当課
文化のまちづくり事業	勝北地域を中心に地元を舞台にした題材を取り上げたミュージカルの制作と地域文化（民謡民舞）の継承・普及活動を実施	3,300	文化課
「おかやま県民文化祭」への参加	津山市をメイン地として開催された県民文化祭に参画し、文化を核とした地域づくりに取り組んだ。	-	文化課

【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (H23)	目標値	実績及び達成率				
				H24	H25	H26	H27	H28
芸術文化の振興	西東三鬼賞投句数	4,154句/年	4,500句/年	4,034句 達成率 0.0%	3,278句 達成率 0.0%			
事業の進捗状況及び今後の課題と方向性								
津山市輩出の俳人西東三鬼を顕彰する事業として、21年間の長きに渡り全国から俳句を公募し表彰している。俳諧では全国に知られた公募展として成長している。今年度においては、投句料を1,000円（3句）から1,500円（3句）に変更したため、投句数の減少が見られた。今後も市の特徴的な文化事業の一つとして継続していくため、投句料の再検討やSNS（ソーシャルネットワークサービス）を利用したPRや全国の関係団体への更なる周知に努めていく。								
取組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (H23)	目標値	実績及び達成率				
				H24	H25	H26	H27	H28
芸術文化の振興	市民音楽祭出演者	1,377人/年	1,500人/年	1,342人/年 達成率 0.0%	1,180人/年 達成率 0.0%			
事業の進捗状況及び今後の課題と方向性								
音楽による文化振興事業として毎年開催している本事業には、今年度も多くの市民が出演し交流を図ったが、前年度から減少し目標値を下回った。平成26年度には、津山国際総合音楽祭も開催される予定であり、市民の自主的・創造的な活動の発表機会の充実のため、SNS（ソーシャルネットワークサービス）を利用したPRや音楽に興味を持ってもらえるような音楽文化の普及に積極的に取り組んでいく。								

【項目の総合評価】

文化環境の整備		担当課	文化課
施策の実績概要と評価理由	文化センターなどの公共ホールにおいては、施設の規模や機能に応じた活用や市民が利用しやすい運営、優秀な芸術活動の鑑賞機会の提供など文化芸術の拠点としての充実を図った。津山郷土博物館においては東京スカイツリーへの「江戸一目図屏風」の展示を契機に、広く一般の人々の関心を引き付け、津山市のPRと共に自館のPRにもなっている。また、津山洋学資料館は開館4年目を迎えたが、年間約1万2千人の来館者があり、津山洋学の県内外への発信を行った。		
今後の課題と方向性	文化施設全体として、来館者数が減少していることから、魅力ある自主企画や講演会の開催、施設整備により文化芸術の拠点としての充実を図る。		
		自己評価	A

【主な取組の実施結果と成果】

ア 文化施設の利用促進と整備		担当課	文化課
実施結果と成果	文化センター等の5つの公共ホールには、指定管理者制度を導入しており、住民サービスの向上や効率的な施設管理が図られるよう指導している。各施設利用者数はベルフォーレ津山と津山文化センターが増加傾向にあり、指定管理者の努力が伺える。また、安全で快適な施設利用を図るため、ベルフォーレ津山の音響及び照明設備改修（事業費約15,198千円）、津山文化センター受変電設備改修（事業費約40,429千円）を実施した。津山郷土博物館においては、県指定文化財「江戸一目図屏風」の紹介や解説本などにより、引き続き「江戸一目図屏風」の素晴らしさや文化財的価値を周知できた。津山洋学資料館においては、講演会の開催、企画展、ワークショップの開催、学芸員による積極的な解説を行った。市民に対する津山洋学の普及・浸透が順調に推移した。		
今後の課題と方向性	自主文化事業、市内学校施設や諸団体との連携事業の充実や計画的な施設改修整備により、施設利用者数の増を図る。		
		自己評価	A

イ 文化情報の収集と提供・発信		担当課	文化課
実施結果と成果	市民の多彩で活発な文化活動を促進し、優れた芸術作品の鑑賞機会充実のため、市内4ホールの情報を津山市HP等で公開し、ホール事業の発信に努めた。また、ホールの指定管理者連絡会議を開き、情報の共有や連携を図ることにより、行政と文化ホールが一体となった文化芸術施策の充実を目指した。		
今後の課題と方向性	広範な文化情報の提供・発信を行うため、広報紙やチラシ等の紙面の活用やインターネット等の電子メディアの活用を行い、市内外への発信に取り組む。また定期的に指定管理者連絡会議を開催し、連携を強化する。		
		自己評価	B

【平成25年度主要事業の実施状況】

事業名	事業概要	決算額 (千円)	担当課
文化施設改修事業	文化ホール等の施設の老朽化に伴い、安全性と利便性を確保するため、ベルフォーレ津山音響及び照明設備、津山文化センター受変電設備の改修工事を実施。	55,627	文化課

【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (H23)	目標値	実績及び達成率				
				H24	H25	H26	H27	H28
公共ホールの活用	公共文化ホール利用者数 (累計)	23.7万人/年	26.0万人/年	22.4万人/年 達成率 0.0%	22.1万人/年 達成率 0.0%			
事業の進捗状況及び今後の課題と方向性								
各文化ホールは、経済状況の影響も受け、ほぼ横ばいであった。今後は指定管理者の自主企画事業の充実や施設間の連携による共同事業の開催など、魅力ある事業への取り組みを目指す。								

【項目の総合評価】

文化財の保存と活用		担当課	文化課
施策の実績概要と評価理由	地域に残る有形・無形文化財の調査・研究を行い、指定・登録の推進に努めた。また、貴重な文化財を後世に継承するため、文化財の保存に向けた取り組みや史跡の整備事業を継続的に行った。		
今後の課題と方向性	今後も継続して、文化財を積極的に調査・研究し、保存に努める。文化財の活用については課題が多く、更に調査・研究が必要である。		
		自己評価	A

【主な取組の実施結果と成果】

ア 文化財の保存と活用		担当課	文化課
実施結果と成果	指定文化財の保存として、尾所の桜、新善光寺のサルスベリの保存修理事業を行った。また、新たに「本源寺本堂・庫裏・霊屋・霊屋表門・中門」が国指定文化財となり、「中山神社の太鼓」を津山市指定文化財として指定した。「津山市城東地区」が重要伝統的建造物群保存地区に選定された。 発掘調査としては、津山城冠木門跡、衆楽園の内容確認調査などを行った。冠木門跡については現地説明会を開催し、50名の参加があった。美作国建国1300年の記念事業で、陶棺復元プロジェクトを開催し、文化財の保護普及活動を行った。		
今後の課題と方向性	指定文化財の保存と未指定文化財の調査・研究を積極的に行う。		
		自己評価	A

イ 推進体制の充実		担当課	文化課
実施結果と成果	文化財の保存と活用を図るための課題（文化財の修繕・維持管理・活用策など）について整理を行い、実施方針・管理方法などについて、地元関係者等と協議し、文化財の修繕と維持管理について方向性を策定した。		
今後の課題と方向性	有効な活用策・管理方法などについては課題が多く、さらに協議・研究して取り組む必要がある。		
		自己評価	B

【平成25年度主要事業の状況】

事業名	事業概要	決算額 (千円)	担当課
津山城跡保存整備事業	「史跡津山城跡保存整備計画」に基づき、本丸周辺等の整備事業を実施	34,017	文化課
美作国分寺跡公有化事業	史跡公園として整備するために土地の公有化を実施	25,824	文化課
文化財調査事業	指定文化財「苅田家住宅及び酒造場」の建物詳細調査を実施	4,971	文化課
「全国国分寺サミット」の開催	国分寺跡を有する自治体が一堂に会し、史跡を活用したまちづくりについて討議	1,211	文化課
「陶棺復元プロジェクト」の実施	古墳時代の美作地域を特徴づける陶棺について市民の認識を深めるため、陶棺のレプリカを市民参加で製作するとともに陶棺シンポジウムを開催	667	文化課

【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (策定時)	目標値	実績及び達成率				
				H 24	H 25	H 26	H 27	H 28
文化財の指定・登録	指定及び登録文化財全ての件数 (累計)	208件	230件	213件 達成率 22.7%	215件 達成率 31.8%			
事業の進捗状況及び今後の課題と方向性								
文化財の保護の面では、順調に進捗している。今後も文化財の保護に積極的に取り組む。								

【項目の総合評価】

郷土学習の推進		担当課	文化課
施策の実績概要と評価理由	郷土博物館では、県指定文化財「江戸一目図屏風」の文化財的価値が知られるようになり、博物館を訪れ、文化財を保存することの意味や郷土史学習の意義を感じる市民が多くなっている。 洋学資料館では洋学に関する理解を深めるための講演会や小学生を対象とした江戸時代の化学書からの実験教室、げんぼプロジェクト（市内小学六年生が全員洋学資料館で学習体験）、学芸員によるオムニバス講演会等を開催、企画展を年4回開催し、市内外から多数の見学者が来館している。また、上廣倫理財団との共催により上廣歴史文化フォーラムを開催している。講演会は毎回70人を超える参加者があり、特に、25年度に初めて実施した開催中の企画展に関連した講演会は好評であった。		
今後の課題と方向性	文化財に関しては、堅苦しいイメージを避けて、身近な楽しみと共に学習ができるように、工夫しながら推進することが必要である。 洋学に関しては、イメージしやすい形での洋学の情報発信により、津山の情報発信と入館者の増加、城東地区への観光誘客をめざす。また、市内学校施設や諸団体との連携事業の充実により、市民に対する洋学の周知を推進する。		
		自己評価	B

【主な取組の実施結果と成果】

ア 学術研究の成果に基づいた学習機会の提供		担当課	文化課
実施結果と成果	美作地域の歴史研究に大きな役割を果たした「美作略史」の新訂・増補となる、「新美作略史」を美作国建国1300年の記念事業として刊行した。今回、古代・中世を対象として、新しい研究成果に基づく膨大な資料を追加して刊行したもので、今後の美作地域史研究への多大な寄与が期待されるものである。 また、洋学資料館において、毎年4月に開催する文化講演会では、洋学史に関する現役の研究者を講師に招き、最新の研究成果に市民が触れる機会を提供している。オムニバス講演会では館長以下学芸員が統一テーマで日頃の研究成果を発表した。これらの講演会について参加者が感想をツイッターやフェイスブックに書き込む等していることから、情報発信に役立ったと考えられる。また、年4回の企画展では津山の洋学に関する様々なテーマにより展示を行い、積極的な学芸員の展示解説など市民の洋学に対する興味の惹起、及び理解の促進に寄与している。		
今後の課題と方向性	市民向けの出版物や講座の質を高めるには、学術的な調査研究が欠かせない。そのためには、職員の資質向上が必須であり、専門的な研修機会の充実やさらなる研究体制の構築が必要である。 洋学資料館では、年間4回の企画展の開催、市民に対する更なる津山洋学の普及、洋学ファン・リピーターの更なる増加、予算削減による企画展開催回数等の事業水準低下の抑制が必要である。		
		自己評価	B

イ 郷土を大切に作る心の醸成		担当課	文化課
実施結果と成果	郷土博物館では、夏休み子ども歴史教室、古文書講座等を開催し、多くの市民に地域の歴史・伝統・文化などへの体験機会を提供した。また、「文化財めぐり」を開催し、郷土の文化財への再認識を図った。 洋学資料館では、「江戸時代の科学実験教室」を開催、国立津山高専・県立津山高校の協力により、津山の洋学者宇田川榕菴の著わした化学書『舎密開宗』から選んだ再現実験を小学生を対象に行っている。参加者は年々増加し、25年度は定員の1・5倍の参加希望があったため、急遽午前・午後の2回に分けて開催した。この実験では国立津山高専・県立津山高校の教員及び学生が講師を務め、わかりやすく化学の楽しさを紹介することができた。前年の参加者を大きく上回ったことなどから、市民に対する津山洋学の普及・浸透が順調に推移していると思われる。 また、げんぼプロジェクトにおいて市内の小学6年生全員が洋学資料館を訪れ、学習体験することにより、郷土の歴史に対する理解促進に役立っていると思われる。		
今後の課題と方向性	郷土を大切に作る心の醸成には、様々な事業を継続して行う必要があるため、今後も継続した取り組みが必要である。 また、津山高専・津山高校以外の中・高校との連携や、げんぼプロジェクト以外の小学校との連携（出前授業等）も必要である。		
		自己評価	B

ウ 地域の学習資源の活用		担当課	文化課
実施結果と成果	郷土博物館が所蔵する古文書類は膨大な量であり、その保存上の理由や閲覧設備の不足などから、実物の閲覧では十分に対応しきれないのが現状である。そのため、利用者の利便性の向上のため、資料のデジタル化が望まれている。今回は、全国的に利用頻度の高い津山松平藩江戸日記と江戸藩邸図等を高精細でデジタル化し、今後の利用に供するためのデータを作成した。平成26年度には、このデータを試験的にインターネットで公開する。また、郷土博物館内においては、パソコンで閲覧することができる。		
今後の課題と方向性	こうしたデータ作成を全資料に及ぼすことが課題であり、かつ、広く調査研究に資するシステムを構築することが必要である。		
		自己評価	A

エ 津山市史の編さん		担当課	津山市史編さん室
実施結果と成果	今年度は、津山市史編さん委員会を2回開催し、基本計画について検討した。全体の構成や巻数など、年間数回の部会開催と合わせて検討を進め、概ね市史編さんの方向性が定まってきた。また、各時代ごとの部会では、執筆者の選定が進められ、多くの執筆者を得ることができた。ほぼ、編さん執筆者体制が整った。民俗部会では、民話編に関して既に調査を開始しており、今後の成果が期待される。		
今後の課題と方向性	今後は、資料調査とその進捗状況に合わせて執筆活動を進めてもらうことになる。その過程で、津山市史だよりや研究紀要などの刊行を考えていく。		
		自己評価	A

【平成25年度主要事業の状況】

事業名	事業概要	決算額 (千円)	担当課
津山市史編さん事業	市町村合併後の津山市史を新たに編さんするため、基本方針等の編さん計画の策定、資料収集等に着手します。	639	津山市史編さん室
歴史資料デジタル公開事業	津山郷土博物館が所蔵する「津山松平藩江戸日記」を高精細でデジタル化し、公開活用を図ります。	29,823	文化課
「新美作略史」の刊行	今後の美作地域の歴史研究に役立てるため、明治以来の研究の進展により収集された資料を編年し、年表のように利用できる「新美作略史」を刊行します。	970	文化課

【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (策定時)	目標値	実績及び達成率				
				H 24	H 25	H 26	H 27	H 28
博物館等の利用	津山郷土博物館、津山洋学資料館、津山弥生の里文化財センター、歴史民俗資料館（加茂、勝北、久米）の年間入館者総数	2.6万人/年	2.8万人/年	23,556人/年 達成率 0.0%	26,602人/年 達成率 30.0%			
事業の進捗状況及び今後の課題と方向性								
歴史民俗資料館（加茂・勝北・久米）の入館者が少ないため、管理方法を含め検討が必要である。								

4. 教育委員会の権限に属する事務のうち市長部局の職員
に補助執行させる事務

自己評価	A
------	---

- 1 個の確立とつなぐ力を育む【幼児教育】 -	自己評価	A
--------------------------	------	---

(1) 幼児教育の充実	自己評価	A
---------------	------	---

【項目の総合評価】

教育内容の充実と環境の整備		担当課	こども課
施策の実績概要 と 評価理由	・「津山市における就学前教育・保育カリキュラム」の活用と検証に向けて、各保育園（所）・幼稚園において取組みが始まった。研究会や講演会等を企画し、保育者の指導力向上を図る様々な取組みを計画的に実施した。 ・教育現場において「津山市の理念」や「発達の特徴と育ちの連続性」を念頭に置いた幼児教育を実践するという意識が持てるようになっていく。 ・各幼稚園において園長をリーダーとして「学校評価」の取組みが熱心になされた。園長会で情報交換し、学校評価について研修を深めることができた。また、幼児理解や特別支援教育について、主任会を中心に実践研究がなされ、教育内容の充実に向けて成果を上げている。		
今後の課題と 方向性	「津山市における就学前教育・保育カリキュラム」のさらなる活用と検証に向けて、具体的な取組みを計画的に実施する。保育現場において特別支援教育の充実、地域や家庭や小学校と連携した質の高い幼児教育の実践を行う。		
		自己評価	A

【主な取組の実施結果と成果】

ア 幼児教育の質の向上		担当課	こども課
実施結果と成果	・「津山市における就学前教育・保育カリキュラム」の活用に向けて、「子どもの心の育ち」に着目した講演会を実施し、教育・保育のの実践につなげることができ有効であった。 ・公立幼稚園の研究大会において、「津山市における就学前教育・保育カリキュラム」を子どもの育ちを見通す上での指針として活用した。保育参観や研究発表を基に話し合いを深めたり、大学教授等の助言により、保育の振り返りをすることができた。 ・全園において、学校関係者評価委員会を年3回開催し、幼稚園における学校評価をまとめ、次年度の幼児教育に役立てることができた。		
今後の課題と 方向性	・「津山市における就学前教育・保育カリキュラム」の活用に向けて、公立保育所において公開保育を開催し、市内の保育関係者により検証をする。 ・各保育園（所）・幼稚園の園訪問等により、学校評価を十分活かした幼稚園経営計画や教育課程を職員が共通理解して、幼児の発達の時期や一人一人の幼児の特質に応じた保育実践がなされるように、丁寧な実態把握と指導をしていく。		
		自己評価	A

イ 就学前教育と小学校教育の連携		担当課	こども課
実施結果と成果	・ 保育園（所）・幼稚園・小学校の相互理解のための研修会を実施した。保育所と幼稚園の取組みを实践発表し、保育所の保育について啓発をしたり、保幼小連携の先進事例の紹介により、地域連携の重要性を認識したりした。 ・ 各幼稚園・小学校に担当者を置くことや、各幼稚園・小学校の教育課程に保幼小連携の取組みを位置付けることにより、子どもの育ちをつなぐ体制を構築した。 ・ 市内各地域において保育園（所）・幼稚園・小学校の連携を計画的に実施している。		
今後の課題と方向性	・ 取組みの地域格差を解消するため、幼児と児童の交流・職員間の意見交換・合同研修の継続的实施・教育課程の編成・実施における連携・接続の体制づくりを進める必要がある。 ・ 研修会等を実施し、意見交換することにより幼児期と児童期の教育活動の相互理解を深め、職員の意識の向上を図り、子ども達の心の育ちや学びの連続性が促されるようにつながりのある実践をするよう努力していく。		
		自己評価	A

ウ 子育て支援の充実		担当課	こども課
実施結果と成果	東・鶴山・加茂幼稚園で、平成23年度から預かり保育を実施している。3年目になり、利用延べ人数も3園で3,489人/年の実績となっている。園児数減少の中、預かり保育実施園は園児数を維持し、保護者のニーズに応えることができている。家庭的な雰囲気の中で異年齢の友達や先生と和やかに安心して過ごすことができ、保護者からも、安心して預けられると好評である。 ・ 未就園交流事業を実施することで、未就園児やその保護者も幼稚園の様子が分かり、将来通園する際のイメージができ、入園の際にスムーズに園生活に溶け込むことができている。園にとっても、入園前に幼児の実態を知ることができ、入園後の指導に効果的である。		
今後の課題と方向性	・ 預かり保育を実施する上で、今後も担任と預かり保育担当者の連携を強化して保育内容の充実に努めることが重要である。 ・ 未就園児交流事業の内容を工夫することで、保護者同士の交流の場や親子の安心して過ごせる場にしていく。		
		自己評価	A

エ 特別支援教育の充実		担当課	こども課
実施結果と成果	・津山市での支援システムを構築し、実態把握をしたうえで、要支援児連絡会を開催して、該当児の支援方針を明らかにし、必要に応じて特別支援員の配置等の調整を行った。 ・保育実践の中での「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」「チェックシート」の作成や、ケース会議の開催により一人一人の育ちに応じた支援に努めた。北小学校・西小学校の通級指導教室にこども課の職員を配置し、通級指導・教育相談・所属園訪問の業務を実施することで、支援体制を強化した。 ・特別支援教育に関して研修会を開催し、保育者が学びを深め、支援を必要とする子どもに対する指導力の向上を図る取り組みとなった。		
今後の課題と方向性	・保育者の指導力向上、保護者の理解、就学指導が課題である。巡回相談の充実や通級指導等、専門機関と保育現場との連携を深め一人一人の支援を必要とする幼児に応じた支援をさらに強化することが重要である。		
		自己評価	A

オ 環境の整備		担当課	こども課
実施結果と成果	・遊具点検を定期的実施し、危機管理意識を高めると共に、安全な遊具の使用方法等についても繰り返し指導を実施する。 ・建築住宅課に依頼し、非構造部材の点検及び施設の点検を実施し計画的な修繕を行っている。		
今後の課題と方向性	・老朽化した園舎などの整備が必要であるが、平成26年度に策定する子ども子育て支援事業計画の動向を見据えて対応する。 ・保育現場における安全点検表を見直し検討して、施設設備の点検を実施する。		
		自己評価	B

【平成25年度主要事業の実施状況】

事業名	事業概要	決算額 (千円)	担当課
幼稚園預かり保育事業	東・鶴山・加茂幼稚園で実施。	2,479	こども課
幼稚園特別支援対策事業	特別支援の必要な幼児のための補助員を配置し、適切な保育用体制を整えた。	6,209	こども課

【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取 組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (策定時)	目標値	実績及び達成率				
				H 24	H 25	H 26	H 27	H 28
公立幼稚園における学校評価	公立幼稚園において学校評価を実施	自己評価を実施	学校評価者による評価を実施	全園での学校評価完全実施 達成率 70.0%	全園での学校評価完全実施 達成率 100%			
事業の進捗状況及び今後の課題と方向性								
平成25年度においても、各公立幼稚園において学校評価者を選出し、学校評価委員会を年間3回実施した。内部評価をした上で、平成26年度の幼稚園の経営計画、教育課程を作成している。 園長がリーダーシップを発揮し、活きた学校評価になるよう、研修を深めながら、引き続き幼稚園としての学校評価に取り組み、職員の資質の向上と幼児教育の充実につなげる。								
取 組 (事業名)	事業指標 (内容)	現況値 (策定時)	目標値	実績及び達成率				
				H 24	H 25	H 26	H 27	H 28
就学前教育・保育の統一的なカリキュラム作成	幼児の発達を着実に促す教育・保育を行うための就学前教育・保育の統一的なカリキュラムの作成	-	カリキュラムを作成し各園(所)で活用	カリキュラムの完成 達成率 70.0%	カリキュラムの完成・配布 達成率 100% 活 用 25%			
事業の進捗状況及び今後の課題と方向性								
「津山市における就学前教育・保育カリキュラム作成委員会」を継承して、平成25年度に「津山市における就学前教育・保育カリキュラム委員会」を立ち上げ、カリキュラムの活用に向けての事業計画を立て講演会等を実施した。今後もさらに教育委員会との連携、各地域の保幼小連携取組の推進、関係機関との連携の充実を図っていく必要がある。 就学前教育・保育の現場で「津山市における就学前教育・保育カリキュラム」を活用し、内容の検証をし幼児教育の質の向上を図る。								

